学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

作業療法学科

２０２５年度　シラバス

syllabus for department of occupational therapists

OCMT

OTA COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

１　授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

２　授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
８０～１００点	評価「優」　単位を認定する。
７０～７９点	評価「良」　単位を認定する
６０～６９点	評価「可」　単位を認定する。
６０点未満	評価「不可」　単位を認定しない。

なお、本試験の得点が６０点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が６０点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

太田医療技術専門学校

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	心理学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	心理学のすべてがわかる本（ナツメ社） 教員作成資料他							
科目概要	心理学の授業では、人間の思考・感情・行動の仕組みを科学的に学ぶ。主なテーマは認知、学習、記憶、発達、社会行動、人格、ストレスと適応など。授業を通じて、心理学の理論や手法を理解し、日常生活や教育、医療などへの応用を考える。							
実務経験と授業科目の関連	臨床心理士及び公認心理師の実務経験を活かし、心理学の概要・歴史、心理テストの種類、実践法などについて解説する。 対人援助を行う上で求められる基本的な心理学的知識を幅広く習得できるような講義を行う。							
到達目標	人間の心の発達過程を知り、それに伴う行動の原理を学び、心理的側面から 人間を理解することがでできる							
評価方法基準	・期末試験の結果　６０点以上を合格とする ・授業出席数を満たす							
成績評価のフィードバック	１，後期末に試験を行い、その結果を公表する。 ２，合格点に満たない学生には、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	心理学とは	心理学とは	
2	心理学とは	歴史	
3	心理学とは	基礎	
4	心に備わった機能	知覚・認知・感情	
5	心の働き	学習と心理・記憶・知能	
6	私らしさの分析（性格）	心理テストの実践	
7	私らしさの分析（性格）	心理テストの分析	
8	対人関係	対人関係の心理学	
9	人間の心	人間の心の発達	
10	人間の心	心のトラブル（精神疾患と防衛機制）	
11	心理療法	基礎	
12	心理療法	実践	
13	メンタルヘルス	青年期のメンタルヘルス	
14	授業のまとめ	試験対策と講義のまとめ	
15	試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	社会福祉学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	よくわかる社会福祉　　ミネルヴァ書房							
科目概要	社会福祉は、私たちの日常生活に深くかかわるものであり、生活上の様々な問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深くかかわるものである。本講義では、様々な角度から社会福祉の理解を深めていく。							
実務経験と授業科目の関連	社会福祉士の実務経験を活かし、福祉の法体系制度、介護保険制度などの実際や課題への理解・関心から専門職としてのチームアプローチ等にどう生かすかを講義する。							
到達目標	１．現場において必要とされる福祉の基礎的な知識の習得 ２．福祉専門職との連携を前提とした、福祉の各分野の理解							
評価方法基準	定期試験９０％、授業態度１０％で評価する							
成績評価のフィードバック	1　採点後答案を返却する 2　60点以下の者に再試験を実施する							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	社会福祉の基本的理解、ノーマライゼーション	社会福祉という考え方、ノーマライゼーション	
2	人権、少子高齢化	社会福祉と人権・権利、少子社会の問題	
3	日本の社会福祉の歴史	社会福祉の歴史と展開	
4	外国の社会福祉の歴史（イギリス、アメリカ）	イギリス、アメリカにおける社会福祉の歴史	
5	社会福祉の法律、機関	社会福祉の仕組みと運営	
6	ソーシャルワーク（基盤、体系、源流他）	ソーシャルワークとソーシャルワーカー	
7	援助における基本的態度、コミュニケーション	ソーシャルワークの展開過程	
8	ケースワークの７つの原則	ケースワークの展開過程	
9	スーパービジョン、エンパワメント、ストレングス	スーパービジョン、エンパワメントとストレングス視点	
10	年金、医療、生活保護	公的年金制度、医療保険制度、生活保護	
11	児童福祉、老人福祉	子ども家庭福祉、高齢者福祉	
12	介護保険、ケアマネジメント	介護システムとケアマネジメント	
13	障害者福祉	障害者福祉	
14	地域福祉、ボランティア、NPO	地域福祉の概念、ボランタリズムとボランティア、NPO（民間非営利組織）	
15	権利擁護システム	権利擁護支援システム	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	基礎科学 □　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　羊土社／「系統看護学講座　病理学」医学書院							
科目概要	医学教育において、生命現象を学ぶことは必須の学問である。多くのメディアは、日常的に生物用語としてのDNA,マクロファージ、ウイルスなどという言葉を取り上げている。すべての生物の生きている基本は細胞であり、その構造や機能、なかでもDNAを始め遺伝子の構造や働きは真髄をなすものの一つである。また、生物の多様性やそれを維持していく環境との相互関係の中での生命にとって、とりわけ人が生きていることのありようを理解することは、メディカルスタッフとしての作業療法士を目指す学生にはとても重要である。本講座では、生きていく面白さも含め、医の倫理としての学習も進めていく。病理学は、基礎医学と臨床医学を結びつける学問であり、臨床に携わる者にとって医学知識の基盤となるものである。臨床検査技師等の実務経験を活かして上記の修得のための授業を展開する。いく。							
実務経験と授業科目の関連								
到達目標	全体を通じて「生命とはどのような現象をいうのか」が理解できるようにする。そのため次のような事柄を学んでいく。①　生物学の成り立ち、歴史　　②細胞の解剖と機能　③　遺伝子の仕組みと働き　④細胞とタンパク質 ⑤多細胞生物の誕生と構成 ⑥ホメオスターシス（個体の恒常性）免疫の働き ⑦内分泌と神経の機能 ⑧生物の進化と私たち ⑥生きることと死ぬこと。これらを通じて医療人として必要な生命観や倫理観を身につけ臨床の場で作業療法の遂行がスムーズにおこなわれていくための一助とする。							
評価方法基準	期末試験及び課題発表の加点を行い、60点以上を取得単位とし、それ以下の取得点数については再試験を実施する。							
成績評価のフィードバック	アクティブラーニング方式を時々取り入れる。章末の確認問題を中心に、さらに独自の課題を提起しグループディスカッションを行い、学生とともに考えながら正解を導き出す。							
事前準備留意点等	□　なし ☑　あり 単元ごとに次回授業の課題を提示、次回の授業時にそれぞれの課題について5分づつ発表してもらう。発表者はランダムに教員が指定する。その解答によっては最終評価に加点する。したがって学生は毎回予習をしてくることになり、理解度を深めることになる。同時に生活の中に学習することが習慣となるように促す。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生物学の歴史とサイエンス	人の歩みと生物学、科学するとはどういうことか。生命科学と倫理	
2	細胞のプロフィール	細胞の徹底解剖、細胞膜を始め細胞小器官の働き。	
3	何が細胞の形や機能を決めているか	細胞の機能を決めているDNAの正体とタンパク質の誕生まで。	
4	細胞が生きて活動していくために	細胞のエネルギーはどうして作られるか。細胞の活動の原動力。	
5	タンパク質が細胞の様々な活動を担う	アミノ酸によって作られているタンパク質とその働き	
6	今までのまとめとディスカッション（1）	生きている原点である細胞が生き生きと活動するためにどんなことが行われるのか。生かされている私達について学ぶ。	
7	多細胞生物への道（細胞間の情報交換）	単細胞から多細胞生物への道を現存している生物から学ぶ。	
8	多細胞生物への道（細胞の数を増やす）	細胞の数はどのように増えているのだろうか。	
9	多細胞生物への道（発生と分化）	無生殖、有生殖の細胞の増殖方法はいかなる方法によるのか	
10	今までのまとめとディスカッション（2）	多細胞生物への進化と個体の生殖は生きていくのに何故必要なのか。体細胞分裂や減数分裂、生きている尊さを学ぶ。	
11	個体を守る免疫の仕組み	体を守る免疫からホメオスターシスとは	
12	生きることと死ぬこと	死ぬことの意味と、生きていることの素晴らしさ	
13	個体としてのまとまり	今まで学習してきたことを個体レベルで考え、統一させる。	
14	生物の進化と多様性	生物の発生から現在の多様な生物界の成立と未来	
15	今までのまとめとディスカッション（3）	私たちはどこからきてどこへいくのか、地球環境の守り手である私たちのなすべきことは何かディスカッションを通じて明らかにする。	

回	単元	内容	備考
16	オリエンテーション、病理学で学ぶこと	病理学で学ぶこと、病気の原因	
17	細胞の損傷と適応	細胞の損傷と適応	
18	細胞の死	細胞の老化と個体の老化	
19	循環障害の基礎	循環器系の概要、	
20	循環障害、血栓症と塞栓症	局所性の循環障害	
21	高血圧、ショック	全身性の循環障害	
22	中間試験	筆記試験を行う	
23	免疫機能、免疫不全	免疫、免疫不全症	
24	アレルギー反応、移植	アレルギーと自己免疫疾患、移植と免疫	
25	感染症１	病原体と感染症、宿主の防御機構	
26	感染症２	おもな病原体と感染症、感染症の治療	
27	代謝障害	脂質・タンパク質・糖質代謝障害と疾患	
28	老化と死	加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死	
29	先天異常と遺伝子異常	先天異常とは、遺伝性疾患、染色体異常による疾患	
30	腫瘍	腫瘍の発生病理、悪性腫瘍の転移と進行度、腫瘍の診断と治療	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>1</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">情報科学
□　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">川邊晶一</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">「30時間でマスター　office2021」実務出版</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">作業療法士として実践に必要な収集や分析ができるよう、また、医療施設において必要なコンピューター操作ができるように、パソコンの基礎から、ワープロソフトでの文書作成、表計算ソフトでの計算処理、プレゼンテーションソフトでのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">情報サービス及び開発に係わる実務経験を活かし、上記の方法論をだけでなく実践的な知識と技能の習得のための講義を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1.パソコンの基礎知識（OS、ブラウザ、操作方法）の習得
2.ワープロソフトで実務的文書（ビジネス文書、連絡・報告書など）
　の作成ができる。
3.表計算ソフトで実用的（会計処理、統計計算、成績処理など）
　な表計算処理ができる
4.プレゼンテーションソフトで効果的なプレゼンテーション資料を作成できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれ単元終了後に与えられた課題をもとに作品を完成させ提出する。クリアしなければならない項目が70％以上で合格とする。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">作品提出後、問題の完全解説をクラス全体に行う。細かい質問は個別対応する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
□　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピュータ基礎	OS（Windows10）の基礎 ファイルとフォルダ・ブラウザの使い方	
2	Word基礎	Wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力	
3	文章入力・書式	ビジネス文書の構成、文書の装飾	
4	表・画像・図形の挿入	表を活用した文書の作成 画像や図形を活用した文書の作成	
5	Word評価テスト	問題に沿って文書作成・提出 問題完全解説	
6	Excel基礎	Excelの画面構成 データ入力	
7	ワークシート編集・計算式	計算式の作り方 関数を使った表計算	
8	グラフ作成	様々なグラフの作成方法 グラフのカスタマイズ	
9	条件判定・検索関数	IF関数による条件判定・複合条件 VLOOKUP関数による検索	
10	便利な機能	データの並べ替え、抽出 Wordとの連携	
11	Excelテスト	問題に沿ってワークシート作成・提出 問題完全解説	
12	PowerPoint基礎	PowerPointの画面構成 スライドの作成	
13	表や画像の活用	アニメーションの付け方 スライドショーの設定	
14	PowerPointテスト	問題に沿ってプレゼンテーション作成・提出 問題完全解説	
15	ビジネスメール	アウトルックを使ったビジネスメールの基本、 宛先の入れ方、添付ファイル等	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	コミュニケーション論 □　実務経験のある教員による授業				担当者	西浦　昭次		
使用教材	日本語表現＆コミュニケーション－社会を生きるための21のワーク（実教出版） （その他、適宜プリントを配布する）							
科目概要	将来の作業療法士として、作業療法の対象者に、的確に自分の意図・意思を伝えるためには、日本語運用能力の向上が必要である。本講義では、書き言葉及び話し言葉でのコミュニケーションに何が必要かを考え、その必要な能力を高めることを主眼とする。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	1　自分の意思を正しく伝えるために適切な言葉を正確に書くことができる。 2　自分の意思を正しく伝えるために適切な言葉で話すことができる。 3　情報伝達において、適切な言葉及び方法を選択できる。							
評価方法基準	前期及び後期に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に前期及び後期の試験において、それぞれ６０点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック	試験の採点後、その結果を個別に伝達する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり 国語辞典があるとよい（なくても構わない）。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション コミュニケーションとは	本講義の概要と予定を説明する。 コミュニケーションの本質を学ぶ。	
2	書く力編２ 漢字仮名交じり文	日本語の書き表し方の特徴について学ぶ。	
3	書く力編３ 句読点	句読点の働きを復習する。	
4	書く力編４ 和語・漢語・外来語	和語・漢語・外来語について知る。 和語・漢語・外来語を適切に使う。	
5	書く力編５ 語彙１	語彙について知る。 学術的文章にふさわしい語彙を知る。	
6	書く力編６ 推敲	推敲の観点を知る。	
7	書く力編７ 語彙２	日本語における言い回しの豊富さを知る。 慣用句を正しく使う。	
8	書く力編８ 改まった文章	書き言葉を理解する。	
9	話す力編１ 挨拶	状況に合わせた挨拶の言葉を学ぶ。	
10	話す力編２ 改まった話し方	改まった話し方・言葉遣いを知る。	
11	話す力編３ 敬語１	敬語の基本を知る。	
12	話す力編３ 敬語２	適切に敬語を使う。	
13	話す力編３ 敬語３	適切に敬語を使う。	
14	前期のまとめ	前期の学習内容のまとめ	
15	テスト	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	話す力編４ 主張・意見表明	適切な主張、意見表明を行うためのポイントを解説する。	
17	話す力編５ 反論	反論の概要と効果的な反論の仕方を解説する。	
18	話す力編６ アサーション	アサーションの概要と相手の立場を踏まえたコミュニケーションを確認する。	
19	学習の基礎力を高める１	学習の基礎力を解説し、その効果的な高め方について概説する。	
20	学習の基礎力を高める２	具体と抽象、比喩について概説する。	
21	学習の基礎力を高める３	同音異義語、対義語、類義語について復習する。	
22	学習の基礎力を高める４	同音異義語、対義語、類義語について復習する。	
23	学習の基礎力を高める５	文章の要約について解説する。	
24	学習の基礎力を高める６	文章の要約について解説する。	
25	学習の基礎力を高める７	文章の要約について解説する。	
26	学習の基礎力を高める８	文章の要約について解説する。	
27	学習の基礎力を高める９	文章の要約について解説する。	
28	学習の基礎力を高める１０	文章の要約について解説する。	
29	後期のまとめ	後期の学習内容のまとめ	
30	テスト	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	人間関係論 □　実務経験のある教員による授業				担当者	西浦　昭次		
使用教材	教員作成の資料・プリント適宜配布							
科目概要	1　ビジネスマナーについて学ぶ。 2　仕事について考える。 3　職業倫理について学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連								
到達目標	1　ビジネスマナーについて理解できる。 2　仕事とは何か理解できる。 3　職業倫理について理解できる。							
評価方法基準	各学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に６０点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック	担任を通じて結果を伝達する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	授業説明	
2	ビジネスマナー	ビジネスマナーの必要性	
3	ビジネスマナー	新入社員に求められる力	
4	ビジネスマナー	身だしなみ・あいさつ・おじぎ	
5	ビジネスマナー	話し方・聞き方	
6	ビジネスマナー	敬語１	
7	ビジネスマナー	敬語２	
8	ビジネスマナー	電話対応の基本	
9	ビジネスマナー	実習先への電話のかけ方	
10	ビジネスマナー	ビジネス文章の概要	
11	ビジネスマナー	実習先への礼状	
12	ビジネスマナー	冠婚葬祭のマナー	
13	ビジネスキャリア	キャリアシュミレーション	
14	ビジネスマナー	まとめ	
15	期末試験		

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	英語 □　実務経験のある教員による授業				担当者	西浦　昭次		
使用教材	最新医学用語演習＜改訂新版＞（南雲堂）							
科目概要	医学の世界では疾患名や処置などで英語の専門用語が多用されている。本講義においては、ギリシャ語・ラテン語を起源とする語要素を学習し、またそれに関連する問題の演習により、医療従事者が知っておくべき医学用語の基礎的な知識の習得を目指す。							
実務経験と授業科目の関連	なし							
到達目標	1　医学英語の構成要素と基本構造を理解する。 2　各単元の語要素をインプットし、適切にアウトプットができる。							
評価方法基準	各学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に６０点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。							
成績評価のフィードバック	試験の採点後、その結果を担任教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。							
事前準備留意点等	☑　なし □　あり 高等学校までの英文法、英文読解等は一切取り扱わない。英語が苦手だった学生も無理なく理解できる内容である。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医学英語の基本構造	語要素の詳細と造語	
2	医学英語の基本構造	基本的な語要素と造語形を学習する	
3	接尾辞１	基本的な接尾辞を学習する	
4	接尾辞１	基本的な接尾辞を学習する	
5	接頭辞	基本的な接頭辞を学習する	
6	接頭辞	基本的な接頭辞を学習する	
7	消化器系	消化器系の語要素を学習する	
8	消化器系	消化器系の語要素を学習する	
9	接尾辞２	基本的な接尾辞を学習する	
10	接尾辞２	基本的な接尾辞を学習する	
11	泌尿器系・男性生殖器	泌尿器系と男性生殖器の語要素を学習する	
12	女性生殖器	女性生殖器の語要素を学習する	
13	体内物質	体内物質の語要素を学習する	
14	まとめ	前期のまとめ	
15	テスト	前期試験	

回	単元	内容	備考
16	循環器・リンパ系	循環器・リンパ系の語要素を学習する	
17	呼吸器系	呼吸器系の語要素を学習する	
18	呼吸器系	呼吸器系の語要素を学習する	
19	大小・形状・色・数	大小・形状・色・数に関する 語要素等を学習する	
20	大小・形状・色・数	大小・形状・色・数に関する 語要素等を学習する	
21	脳神経系	脳神経系の語要素を学習する	
22	脳神経系	脳神経系の語要素を学習する	
23	筋・骨格系	筋・骨格系の語要素を学習する	
24	撮影・検査・測定・治療	撮影・検査・測定・治療に関する 語要素等を学習する	
25	撮影・検査・測定・治療	撮影・検査・測定・治療に関する 語要素等を学習する	
26	感覚器	感覚器の語要素を学習する	
27	感覚器	感覚器の語要素を学習する	
28	人体と位置・方向	人体や位置・方法を表す語要素を 学習する	
29	まとめ	後期のまとめ	
30	テスト	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実技	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	保健体育 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	長澤　憲一		
使用教材	なし							
科目概要	さまざまな運動・スポーツの実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成する。本授業では球技を中心に行う。							
実務経験と授業科目の関連	保健体育教師としての実務経験を活かし、健康とスポーツについて理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めるとともに、仲間とのコミュニケーションを深められるよう指導を行う。							
到達目標	1　運動やスポーツの楽しさや喜びを味わわせることができるようにする とともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 2　生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付ける とともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。							
評価方法基準	授業中の意欲・関心・態度　②技能　③思考・判断　④出席状況の４観点を総合的に判断する。 評価基準・・・８０点以上→A、７９～７０点→B、６９～６０点→C、６０点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。							
成績評価のフィードバック	評価は担任を通じて伝達する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	体育知識	オリエンテーション	自動車校体育館
2	体育実技（球技）	バレーボール	自動車校体育館
3	〃	バレーボール	自動車校体育館
4	〃	バレーボール	自動車校体育館
5	〃	バレーボール	自動車校体育館
6	〃	バレーボール	自動車校体育館
7	体育的行事	球技大会	自動車校体育館
8	体育的行事	球技大会	自動車校体育館
9	体育的行事	球技大会	自動車校体育館
10	体育実技（球技）	バスケットボール	T-field
11	〃	バスケットボール	T-field
12	〃	バスケットボール	T-field
13	〃	バスケットボール	T-field
14	〃	バスケットボール	T-field
15	〃	バスケットボール	T-field

回	単元	内容	備考
16	体育実技（球技）	バスケットボール	T-field
17	〃	グランドゴルフ	T-field
18	〃	グランドゴルフ	T-field
19	〃	グランドゴルフ	T-field
20	〃	グランドゴルフ	T-field
21	〃	グランドゴルフ	T-field
22	〃	グランドゴルフ	T-field
23	〃	サッカー	T-field
24	〃	サッカー	T-field
25	〃	サッカー	T-field
26	体育的行事	体育祭	T-field
27	体育的行事	体育祭	T-field
28	体育実技（球技）	サッカー	T-field
29	〃	サッカー	T-field
30	座学	体育理論	T-field

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	120	対象年次	1
科目名	解剖学Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	宮澤 満		
使用教材	教員作成の資料・プリント 「入門人体解剖学 改訂第５版」南江堂							
科目概要	医学教育の基礎である正常な体の形態と構造を学び、病気や障がいによる体の変化に正しく安全にリハビリテーションが遂行できる知識を養う。							
実務経験と授業科目の関連	理学療法士の実務経験を活かし、総論・骨学・関節靭帯学・筋学・神経学・循環器学・消化器学・呼吸器学・泌尿器学等について解説し、国家試験及び作業療法における必要な解剖学の知識を講義する。							
到達目標	「解剖学とは何か？」が理解できる。 細胞、組織、器官、器官系、個体などを理解できる。 骨の名称、形態、構造、機能が理解できる。 関節および靭帯の構造と機能が理解できる。 筋の名称、形態、構造、機能が理解できる。 神経系（中枢・末梢）の名称、形態、構造、機能が理解できる。 上行性・下行性伝導路の名称、形態、構造、機能が理解できる。 心臓および動静脈・リンパ系の名称、形態、構造、機能が理解できる。 消化器系（周辺器官を含む）の名称、形態、構造、機能が理解できる。 呼吸器系の名称、形態、構造、機能が理解できる。 腎臓・泌尿器系の名称、形態、構造、機能が理解できる。							
評価方法基準	前・後期にそれぞれ中間・期末試験を実施し６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	１．中間・期末試験（年４回）を行い結果を公表する。 ２．期末試験不合格者には再試験を実施する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖学 総論 ①	解剖学とは　人体各部の名称　解剖学的位置	
2	解剖学 総論 ②	人体の構成・細胞・支持組織・発生	
3	骨学 総論 ①	全身の骨格	
4	骨学 総論 ②	骨の構造と機能、成長	
5	骨学 各論 ①	頭蓋骨の構造、連結	
6	骨学 各論 ②	脊柱・各椎骨の形態的特徴	
7	骨学 各論 ③	胸郭の構造、機能	
8	骨学 各論 ④	上肢帯の骨	
9	骨学 各論 ⑤	上肢の骨	
10	骨学 各論 ⑥	下肢の骨	
11	関節靱帯学 総論	骨の連結、関節の種類と構造、機能	
12	関節靱帯学 各論 ①	脊柱と頭蓋および胸郭の連結	
13	関節靱帯学 各論 ②	上肢の連結	
14	関節靱帯学 各論 ③	下肢の連結	
15	評価	中間試験	

回	単元	内容	備考
16	筋学 総論	骨格筋の構造と作用	
17	筋学 各論 ①	上肢帯の筋	
18	筋学 各論 ②	上肢（伸筋群）、前腕（屈筋群）の筋	
19	筋学 各論 ③	前腕（伸筋群）、手指（屈曲・伸展）の筋	
20	筋学 各論 ④	手内筋（外来筋と内在筋）	
21	筋学 各論 ⑤	指背腱膜、内在筋優位・劣位	
22	筋学 各論 ⑥	骨盤の筋	
23	筋学 各論 ⑦	下肢帯の筋	
24	筋学 各論 ⑧	下肢の筋（大腿部）	
25	筋学 各論 ⑨	下肢の筋（下腿部）、足根管	
26	筋学 各論 ⑩	頭部の筋（表情筋・咀嚼筋）	
27	筋学 各論 ⑪	舌筋、頸部の筋	
28	筋学 各論 ⑫	胸部の筋と呼吸筋	
29	筋学 各論 ⑬	背部・腹部の筋	
30	評価	期末試験	

回	単元	内容	備考
31	神経学 総論	神経系の構造と機能、髄膜と脳室系	
32	神経学 各論 ①	脳幹（延髄）、ベル・マジャンディーの法則	
33	神経学 各論 ②	脳幹（橋、中脳）、間脳の構造と機能	
34	神経学 各論 ③	大脳の構造と機能、大脳皮質の機能局在	
35	神経学 各論 ④	大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能	
36	神経学 各論 ⑤	大脳髄質の種類と構造、小脳の構造と機能	
37	神経学 各論 ⑥	末梢神経の構造と分類・区分 脳神経（Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、Ⅷ）	
38	神経学 各論 ⑦	脳神経（Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ）	
39	神経学 各論 ⑧	脳神経（Ⅹ～Ⅻ）	
40	神経学 各論 ⑨	上行性伝導路	
41	神経学 各論 ⑩	下行性伝導路（錐体路）	
42	神経学 各論 ⑪	下行性伝導路（錐体外路）	
43	神経学 各論 ⑫	デルマトーム・自律神経	
44	神経学 各論 ⑬	固有支配領域、神経叢	
45	評価	中間試験	

回	単元	内容	備考
46	循環器学 各論 ①	心臓の構造と機能	
47	循環器学 各論 ②	動脈の構造と機能 （大動脈弓、ウイリス動脈輪）	
48	循環器学 各論 ③	動脈の構造と機能（胸部・腹部大動脈）	
49	循環器学 各論 ④	静脈の構造と機能（門脈系）	
50	循環器学 各論 ⑤	リンパ系の構造と機能	
51	循環器学 各論 ⑥	リンパ性器官の構造と機能	
52	消化器学 総論	消化管の基本構造 内臓器官の構造と機能	
53	消化器学 各論 ①	口腔、食道の構造と機能	
54	消化器学 各論 ②	胃、小腸（十二指腸）の構造と機能	
55	消化器学 各論 ③	小腸（空腸・回腸）、大腸の構造と機能	
56	消化器学 各論 ④	付属器官（肝臓、脾臓、膵臓）の構造と機能	
57	呼吸器学 各論 ①	上気道・下気道の構造と機能	
58	呼吸器学 各論 ②	肺の構造と機能	
59	泌尿器学 各論	腎臓・膀胱の構造と機能	
60	評価	期末試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	3
科目名	解剖学Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	石森恵子		
使用教材	標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第5版　医学書院 人体解剖パーフェクト事典　ナツメ社							
科目概要	消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌・感覚器系の解剖学的構造について授業を行う							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、体の器官・組織の配置やそれぞれの機能について解説し、作業療法士及び国家試験における必要な知識を講義する。							
到達目標	・解剖学Ⅰの復習を行いながら、知識を整理して専門科目との結びつきを図る ・国家試験問題が解けるようになる							
評価方法基準	小テスト・前後期テストを総合して判定する							
成績評価のフィードバック	1　まとめのテスト、定期試験について点数を公表する 2　不合格者には再試験を実施する							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	消化器系	口腔・咽頭・食道	
2	消化器系	胃・小腸・大腸	
3	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓	
4	消化器系	まとめ	
5	呼吸器系	気管・気管支と肺胞	
6	呼吸器系	肺の構造	
7	呼吸器系	まとめ	
8	泌尿器系	腎臓・膀胱の構造	
9	泌尿器系	まとめ	
10	内分泌系	下垂体・松果体・甲状腺	
11	内分泌系	上皮小体・副腎・膵臓	
12	内分泌系	まとめ	
13	感覚器	視覚器・平衡感覚器・皮膚	
14	感覚器	まとめ	
15	テスト	試験	

回	単元	内容	備考
16	神経系	脊髄と脊髄神経	
17	神経系	脳の構造	
18	神経系	脳の構造	
19	神経系	自律神経	
20	神経系	まとめ	
21	循環器系	心臓の構造	
22	循環器系	動脈系・静脈系	
23	循環器系	血液・血球・造血組織	
24	循環器系	まとめ	
25	生殖器系	男性・女性の生殖器	
26	総論	人体の形成と細胞の構造	
27	総論	DNAの構造と複製	
28	総論	細胞分裂・染色体	
29	総論	まとめ	
30	テスト	試験	

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	120	対象年次	2
科目名	生理学Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	佐藤　友彦		
使用教材	「生理学テキスト」　文光堂、視聴覚教材							
科目概要	1年次に学習した、生体を構成する10系統の器官ごとに その機能を網羅的に学習する。							
実務経験と授業科目の関連	基礎医学系大学院での研究経験を活かし、生理学の知識を初歩から国家試験合格に必要なレベルまで講義する。							
到達目標	１年次に習得した人体の構造の知識を基礎として，人体の機能を植物性機能から動物性機能に至るまで理解することを目標とする。							
評価方法基準	前期(中間試験・期末試験)、後期(中間・期末試験、レポートの結果、出席状況、授業態度等を総合的に判断し６０点未満を不合格とする。☒							
成績評価のフィードバック	１．中間試験、期末試験を実施し結果を公表する。 ２．不合格者には再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生理学の基礎１	生理学とは	
2	生理学の基礎２	受動輸送と能動輸送	
3	神経の基本構造１	神経細胞と興奮の伝導	
4	神経の基本構造２	膜電位	
5	神経の基本構造３	興奮発生とイオンチャネル	
6	神経の基本構造４	興奮伝導	
7	骨格筋の機能１	骨格筋の構造	
8	骨格筋の機能２	運動機能の調節	
9	骨格筋の機能３	中枢神経系の高次機能	
10	骨格筋の機能４	感覚一般と体性感覚	
11	シナプス伝達１	神経筋伝達	
12	シナプス伝達２	中枢神経系のシナプス伝達	
13	シナプス伝達３	神経伝達物質	
14	自律神経系１	自律神経系の構造と作用	
15	自律神経系２	自律神経系の受容体	

回	単元	内容	備考
16	運動系 1	脊髄	
17	運動系 2	脳幹と小脳	
18	運動系 3	大脳皮質と大脳基底核	
19	感覚 1	体性感覚と上行性伝道路	
20	感覚 2	味覚と嗅覚	
21	感覚 3	聴覚と前庭感覚	
22	感覚 4	視覚	
23	脳の統合機能 1	大脳皮質の構造と機能	
24	脳の統合機能 2	大脳辺縁系と視床下部	
25	脳の統合機能 3	睡眠と脳波	
26	脳の統合機能 4	学習と記憶	
27	血液 1	血液の成分	
28	血液 2	血液凝固	
29	血液 3	血液型	
30	血液 4	免疫	

回	単元	内容	備考
31	心臓１	心臓の構造と興奮	
32	心臓２	心電図と心周期	
33	循環１	血行力学（１）	
34	循環２	血行力学（２）	
35	循環３	循環調節	
36	循環４	微小循環	
37	循環５	特殊領域の循環	
38	呼吸１	肺の構造	
39	呼吸２	気道の機能	
40	呼吸３	呼吸運動	
41	呼吸４	呼吸力学とガス交換	
42	呼吸５	呼吸運動の調節	
43	消化と吸収１	消化管の構造と神経支配	
44	消化と吸収２	消化管の運動	
45	消化と吸収３	消化液の分泌	

回	単元	内容	備考
46	消化と吸収４	栄養素の分解と吸収	
47	内分泌１	ホルモンの作用機序	
48	内分泌２	視床下部と下垂体	
49	内分泌３	副腎髄質と副腎皮質	
50	内分泌４	甲状腺と上皮小体	
51	内分泌５	膵臓の内分泌機能	
52	生殖１	生殖生理	
53	生殖２	性ホルモン	
54	腎機能１	腎臓の構造	
55	腎機能２	クリアランス	
56	腎機能３	再吸収と分泌	
57	腎機能４	排尿	
58	酸塩基平衡	酸塩基平衡と異常	
59	代謝と体温１	栄養と代謝	
60	代謝と体温２	体温とその調節機構	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	3
科目名	生理学Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	石森恵子		
使用教材	新生理学　日本医事新報社／いちばんやさしい生理学　成美堂出版／人体解剖パーフェクト事典　ナツメ社							
科目概要	人体の神経系・筋系・感覚系の基本的な生理学的機能（人体を構成する各要素）がどのような活動を行っているかについて学ぶ							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、生体機能とそのメカニズムを理解し、作業療法及び国家試験における必要な知識を講義する							
到達目標	・生理学Ⅰの復習を行いながら、知識を整理して専門科目との結びつきを図る ・国家試験問題が解けるようになる							
評価方法基準	小テスト、前後期テストを総合して判定する							
成績評価のフィードバック	1　小テスト、定期試験について点数を公表する 2　不合格者には再試験を実施する							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	細胞の構造と機能	細胞の基本構造・細胞内小器官の機能・タンパク質の構造、合成	
2	細胞の構造と機能	細胞内外の物質移動・ミトコンドリアにおけるATP産生	
3	細胞の興奮と電動	膜電位（静止膜電位）・活動電位・不応期・興奮伝導の法則・神経線維の種類と伝導速度	
4	神経と筋	骨格筋の構造・興奮収縮連関・筋収縮について	
5	神経と筋	神経伝達物質、神経筋接合部における興奮の伝達・α運動ニューロン・γ運動ニューロンとγループ	
6	神経と筋	筋紡錘と腱器官・反射と反射中枢・脊髄反射	
7	末梢自律神経系	消神経の区分・交感神経と副交感神経・排尿、排便の神経支	
8	中枢神経系	大脳皮質・大脳基底核・小脳・大脳辺縁系・視床下部	
9	中枢神経系	脳幹・血液脳関門、髄液循環	
10	中枢神経系	まとめ	
11	呼吸	排気量の区分・肺におけるガス交換	
12	呼吸	肺におけるガス交換・血液による酸素の運搬・呼吸の調節	
13	循環	心臓の神経性調節・全身の血圧調節	
14	循環・呼吸	まとめ	
15	腎	ネフロンの構造と機能・糸球体におけるろ過	

回	単元	内容	備考
16	腎	尿細管の吸収・水の再吸収・体液量と体液浸透圧の調節・エリスロポエチン	
17	腎	まとめ	
18	消化と吸収	咀嚼と嚥下・胃の運動・胃液の成分と分泌調節・胃酸の分泌	
19	消化と吸収	胃での消化作用・小腸の消化吸収作用	
20	消化と吸収	糖質、タンパク質、脂質の消化吸収	
21	消化と吸収	肝臓の機能と代謝	
22	消化と吸収	胆汁の分泌・膵液の分泌	
23	エネルギー代謝と体温	エネルギー代謝率・体温と発熱	
24	消化と吸収	まとめ	
25	内分泌	成長ホルモン・甲状腺刺激ホルモン・甲状腺ホルモン・パラソルモンとカルシトニン	
26	内分泌	副腎皮質ホルモン・糖質コルチコイド・電解質コルチコイド・抗利尿ホルモン	
27	生殖	妊娠・分娩にかかわるホルモン	
28	生殖	男性ホルモン	
29	生殖	まとめ	
30	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	5	開講時期	通年	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	75	対象年次	1
科目名	運動学Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小林　雅津良 袴田亮一		
使用教材	基礎運動学、画像（動画）、その他配布資料							
科目概要	運動を研究する学問であり、運動器の構造が生体においてどのように機能しているかを理解する。 作業療法士としての実務経験を活かし国家試験のみならず臨床実習でも使用できる基礎的知識を習得する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、運動学分野の身体運動の特徴や、運動技能や運動学習に影響を及ぼす骨格筋群、各関節の機能的構造、神経機構に対する知識が得られるよう解説する。							
到達目標	※人の正常運動を理解する。 1.　力学の基礎を理解できる。 2.　生体の構造と機能を理解できる。 3.　上肢・下肢・体幹の運動を理解できる。 4.　運動分析が理解できる。 5.　姿勢が理解できる。 6.　歩行が理解できる。 7.　運動発達が理解できる。 8.　運動学習が理解できる。							
評価方法基準	前・後期中間及び期末に筆記(実技)試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	合格者は試験の結果を通知する（不合格者については個別対応）							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	本講義の内容と流れの説明	
2	運動学とは	基礎確認テスト	
3	運動の面と軸、数学の基礎	各名称、単位・比率・割合	
4	数学・物理の基礎	三角関数、速度、	
5	〃	重力、ベクトル	
6	骨学習	頭部、体幹	
7	〃	〃	
8	〃	上肢、下肢	
9	〃	〃	
10	骨学習口頭試問	口頭試問	
11	〃	〃	
12	〃	筋・神経の予備学習	
13	〃	〃	
14	関節	関節の形態と機能	
15	筋	筋収縮の様態	

回	単元	内容	備考
16	全身の動脈	動脈の基礎	
17	全身の神経	神経の基礎 （脳、脊髄、末梢神経、腕神経叢）	
18	肩甲帯	肩甲帯の機能	
19	肩関節	肩関節の機能	
20	肘関節、前腕	肘関節、前腕の運動	
21	手関節、手指	手関節、手指の運動	
22	上肢運動	上肢運動のまとめ	
23	前期末試験	筆記試験	
24	骨盤、股関節	骨盤、股関節の運動	
25	膝関節、足関節	膝関節、足関節の運動	
26	頸部、体幹	頸部、体幹の運動	
27	呼吸運動	呼吸運動の基礎	
28	神経生理	神経生理の基礎	
29	反射、自原抑制	伸張反射、自原抑制、屈曲反射	
30	神経支配、反射、反応	相反神経支配、交差伸展反射、陽性支持反応	

回	単元	内容	備考
31	反射、反応	緊張性迷路反射、緊張性頸反射、防御反応	
32	後期中間試験	筆記試験	
33	随意運動	随意運動について	
34	歩行	歩行の基礎	
35	運動分析	運動分析の基礎	
36	記憶と学習	記憶と学習の基礎	
37	運動学習	運動学習について	
38	後期期末試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	運動学Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	宮澤 満		
使用教材	教員作成の資料・プリント 「基礎運動学 第６版」医歯薬出版							
科目概要	人体の構造と機能の関連性に着目し、骨および関節運動を力学的観点から捉え、あわせて運動生理学や神経生理学も含めた身体機能の幅広い知識を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	理学療法士の実務経験を活かし、運動器の構造と機能について解説し、国家試験及び作業療法における必要な運動学の知識を講義する。							
到達目標	力学の基礎を理解できる。 生体の構造と機能を理解できる。 上下肢・体幹の運動を理解できる。 運動生理学の基礎が理解できる。 正常歩行や姿勢が理解できる。 運動発達や運動学習の基礎が理解できる。							
評価方法基準	期末試験を実施し６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	１．期末試験を行い結果を公表する。 ２．不合格者には再試験を実施する。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり １年次に履修した「運動学Ⅰ」を復習しておく。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	運動学総論	面と軸、アライメント、重心、てこ	
2	運動学各論 ①	頭部・体幹の関節	
3	運動学各論 ②	上肢の関節	
4	運動学各論 ③	下肢の関節	
5	運動学各論 ④	肩甲骨から上腕の筋	
6	運動学各論 ⑤	肩甲骨から上腕の筋	
7	運動学各論 ⑥	肘関節、手の外来筋	
8	運動学各論 ⑦	手の内在筋	
9	運動学各論 ⑧	骨盤・股関節の筋	
10	運動学各論 ⑨	大腿・膝関節の筋	
11	運動学各論 ⑩	下腿・足関節の筋	
12	運動学各論 ⑪	循環・血圧・心電図の基礎	
13	運動学各論 ⑫	歩行・床反力	
14	運動学各論 ⑬	姿勢制御と反射	
15	運動学各論 ⑭	運動発達・運動学習	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	2
科目名	神経内科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小松　博幸		
使用教材	病気がみえるvol７　脳・神経第２版（メディック・メディア）							
科目概要	リハビリテーションの対象となることの多い、脳血管障害、外傷性脳損傷、脳腫瘍、脊髄疾患、神経変性疾患、運動ニューロン疾患、筋疾患、感染性疾患等の神経内科学分野の疾患の特徴や、それによって生じる障害に対して適切な検査・評価を行い、治療を実施するための知識を身につける。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、神経内科学分野のそれぞれの疾患の特徴や、それによって生じる障害に対して適切な検査・評価や治療を実施するための知識が得られるよう解説する。							
到達目標	神経内科学分野のそれぞれの疾患の特徴や、それによって生じる障害に対して、適切な検査・評価や治療を実施するための知識を身につける。							
評価方法基準	試験の成績６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を掲示し、答案を返却する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論	神経内科学総論	
2	脳血管障害	脳血管障害の分類	
3		各脳血管障害の特徴	
4	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷	
5	脳腫瘍	脳腫瘍の分類	
6		各脳腫瘍の特徴	
7	神経変性疾患	神経変性疾患の分類	
8		神経変性疾患の特徴	
9	運動ニューロン障害	運動ニューロン疾患の分類と特徴	
10	脱髄疾患	脱髄疾患の分類と特徴	
11		各脱髄疾患の特徴	
12	末梢神経障害	末梢神経障害の分類と特徴	
13		各末梢神経障害の特徴	
14	筋疾患	筋疾患の分類と特徴	
15		各筋疾患の特徴	

回	単元	内容	備考
16	感染性疾患	感染性疾患の分類と特徴	
17		各感染性疾患の特徴	
18	脊髄疾患	脊髄疾患の分類と特徴	
19		各脊髄疾患の特徴	
20	先天性代謝異常	先天性代謝疾患の分類と特徴	
21		各先天性代謝疾患の特徴	
22	小児神経疾患	小児神経疾患の分類と特徴	
23		小児神経疾患の特徴	
24		小児神経疾患の特徴	
25	不随意運動を主症状とする疾患	不随意運動の分類	
26		各不随意運動を示す疾患の特徴	
27	運動失調	運動失調の分類と特徴	
28	頭痛・めまい・失神	頭痛・めまい・失神の特徴	
29	神経疾患に多い合併症	神経疾患に多い合併症の分類と特徴	
30		神経疾患に多い合併症の特徴	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	2
科目名	整形外科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	作業療法学科教員 （オムニバス）		
使用教材	病気がみえる１１　運動器、整形外科　医療情報科学研究所岡庭豊編集　株式会社メデッィクメディア							
科目概要	解剖学・生理学・運動学的知識をもとに、各種整形外科疾患について学ぶ。さらに治療についても学修する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての経験に基づき整形外科的疾患の治療・病態の理解に必要な解剖学・生理学等の基礎知識について講義し、さらに整形外科とリハビリテーション医学の関係について講義する。							
到達目標	1　骨折についての診断・治療・リハビリテーションについて説明できる 2　膝疾患について病態を理解しリハビリテーションと関係づけることができる 3　肩の疾患について分類し、具体的に治療方法を述べることができる 4　装具・ギプスの適用について述べることができる 5　整形外科的診断学（視診・問診・触診など）について説明することができる							
評価方法基準	前期及び後期末に筆記試験を行い、総合的に６０点以上得点したものに単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	授業中に質問に対し随時フィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 解剖学・運動学の知識が必要であるため、小テストを実施する。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	導入・外傷	外傷のプライマリケア	
2	救命・骨折総論	骨折の分類、診断、治療	
3	骨折、脱臼総論	肩関節脱臼	
4	脊髄損傷	発生原因・分類・診断	
5	肩の疾患	肩関節周囲炎、内反肘、外反肘	
6	骨折	舟状骨骨折	
7	骨折	大腿骨骨折	
8	骨折	足関節骨折	
9	コンパートメント症候群	病態・症状・検査・治療	
10	骨折	踵骨骨折	
11	神経障害	絞扼性神経障害・神経痛	
12	義肢・装具療法	上肢装具・下肢装具・体幹装具	
13	診察法	視診・触診・整形外科的計測法・神経学的初見のとり方・画像検査	
14	ギプス・関節可動域	ギプス固定	
15	前期試験	前期期末試験	

回	単元	内容	備考
16	治療	手術（整形外科的手術総論・骨の手術、軟骨、関節の手術、腱、靭帯の手術）	
17	体幹の疾患	側弯症	
18	下肢の疾患	膝関節鏡手術	
19	体幹の疾患	腰椎椎間板ヘルニア	
20	体幹の疾患	椎間板炎	
21	体幹の疾患、外傷	脊椎分離症、脊椎分離すべり症、下板段れる	
22	上肢の疾患、手の疾患	五十肩、指変形	
23	下肢の疾患	先天性股関節脱臼	
24	下肢の疾患	前十字靭帯・後十字靭帯損傷	
25	下肢の疾患	足の疾患、骨端症（シーバー病）	
26	下肢の疾患	変形性関節症	
27	代謝性骨疾患	骨粗鬆症	
28	リウマチ性疾患	関節リウマチ	
29	骨、軟部腫瘍	骨肉腫	
30	後期試験	後期期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	精神医学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	外来講師（オムニバス）		
使用教材	教科書「精神医学」医学書院							
科目概要	臨床場面で出会う代表的な精神疾患の基本的知識を学ぶ。国家試験のみでなく実際の臨床においても役立つ講義を実施する。							
実務経験と授業科目の関連	精神科医をはじめとした精神科医療に関わるコメディカルスタッフにより、実務経験に基づいた現代の精神医学及び実践について学ぶ。							
到達目標	精神現象の異常を説明できる。 精神疾患の概念について説明できる。 精神疾患の症状について説明できる。 精神疾患の治療について説明できる。 精神障碍者の社会復帰・自立について説明できる。							
評価方法基準	前期末に筆記試験を行い、総合的に６０点以上得点したものに単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	期末試験の成績が60点未満の学生に対して、再試験を実施する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	精神障害の診断と評価Ⅰ	共感演習	
2	精神障害の診断と評価Ⅱ	心理検査	
3	精神医学の歴史	法律および概論	
4	精神障害概論	精神障害の原因と分類、 精神機能の障害と精神症状	
5	器質性精神障害	診断・治療・援助	
6	精神遅滞・心理的発達の障害	診断・治療・援助	
7	精神医学各論	ライフサイクル	
8	神経症、てんかん、 摂食障害、睡眠障害	診断・治療・援助	
9	パーソナリティ障害・精神作用物質による精神および行動の障害	診断・治療・援助	
10	統合失調症	診断・治療・援助	
11	気分障害	診断・治療・援助	
12	障害者総合支援法と ケアマネジメント	理論と臨床での実際	
13	リハビリテーション	社会文化とメンタルヘルス、 職業リハビリテーション	
14	治療総論	精神障害の治療とリハビリテーションⅠ	
15	定期試験	前期試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	2
科目名	内科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	作業療法学科教員 （オムニバス）		
使用教材	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　医学書院							
科目概要	内科学の概念及び疾患を理解する。内科学とリハビリテーション医療について理解を深める。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての実務経験に基づき、内科疾患に関する診断・治療の進め方、検査結果の解釈、病態像、治療方法について学ぶ							
到達目標	1　内科学的診断学の意義と目的を説明できる 2　病歴のとり方、診断の進め方、医療記録についてその意義を説明できる 3　内科学的診断における診断法とその臨床的意義について説明できる 4　臨床検査について、その内容、実施方法、意義を説明できる 5　内科的治療法である薬物療法の位置づけ、注意しなければならない点について説明できる							
評価方法基準	前期及び後期末に筆記試験を行い、総合的に６０点以上得点したものに単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	授業中に質問に対し随時フィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	内科学とは	内科学の概念	
2	内科的診断と治療の実際	診断の進め方、診察法、臨床検査	
3	症候学	発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐、易感染症、意識障害	
4	症候学	めまい、浮腫、むくみ、レイノー現象、頭痛、リンパ節腫脹、ショック	
5	循環器	循環器疾患の主な症候	
6	循環器	循環器疾患の診断法、循環器疾患の各論	
7	呼吸器	呼吸器疾患の症候とその病態生理	
8	呼吸器	臨床検査、所見、呼吸器疾患の各論	
9	消化器	消化器疾患の症候とその病態生理	
10	消化器	消化器疾患各論	
11	胆管膵	胆管膵疾患の検査、診断法	
12	胆管膵	胆管疾患、膵疾患、腹膜疾患	
13	前期のまとめ	前期のまとめ	
14	前期のまとめ	前期のまとめ	
15	前期試験	前期期末試験	

回	単元	内容	備考
16	血液疾患	血液疾患の主な症候	
17	血液疾患	血液の検査法、血液疾患各論	
18	代謝性疾患	代謝性疾患各論	
19	代謝性疾患	（糖尿病、メタボリックシンドローム、痛風、ビタミン欠乏症、過剰症）	
20	内分泌疾患	内分泌検査法	
21	内分泌疾患	内分泌疾患各論（視床下部の疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患）	
22	腎・泌尿器疾患	腎疾患の症候とその病態生理	
23	腎・泌尿器疾患	腎泌尿器疾患各論（腎不全、糸球体の疾患）	
24	アレルギー疾患・膠原病	アレルギー疾患（気管支喘息、花粉症、アナフィラキシーショック、アトピー性皮膚炎）	
25	アレルギー疾患・膠原病	膠原病、リウマチ性疾患	
26	感染症	感染経路、感染症の臨床症状	
27	感染症	感染症各論（細菌感染症、真菌症、ウイルス感染症、原虫感染症、寄生虫病、プリオン病）	
28	後期のまとめ	後期のまとめ	
29	後期のまとめ	後期のまとめ	
30	後期試験	後期期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	小児科学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	斎藤美都江		
使用教材	「標準理学療法・作業療法学　専門基礎分野　小児科学」（医学書院）							
科目概要	作業療法士国家試験における小児関連の問題は多くはない。しかし少子化の進む現在、健康な子どもたちにとっても成長を育む環境は厳しくなっている。 　本講義では正常発達及び代表的疾患に関わる基礎知識を学び、将来作業療法士として実践されうる障害、問題を抱える小児やそのご家族との関りを深く考える機会とする。							
実務経験と授業科目の関連	看護師としての実務経験から理解した、小児における正常な成長発達と代表的疾患の基礎知識を講義・解説する。							
到達目標	１．正常な小児の成長発達を理解できる。 ２．現代の日本の子どもや小児医療が抱える問題を理解できる。 ３．小児の代表的な疾患を理解できる。 ４．療育を必要とする小児とのかかわり方を知る。							
評価方法基準	後期末に筆記試験を行う。また受講態度は点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上を得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	試験の採点後の点数開示及び不合格者の発表は学科の規定に従う。試験に関する疑問点などへの対応は学生の希望があれば実施する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児科学概論	成長・発育と発達①	
2	小児科学概論	成長・発育と発達②／小児の保健	
3	小児科学概論	不慮の事故と予防法	
4	診断と治療の概要	診断、検査、治療法	
5	診断と治療の概要	小児の救急蘇生法	
6	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	新生児・未熟児疾患	
7	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	感染症	
8	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	免疫・アレルギー疾患、膠原病	
9	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	血液・内分泌・神経・筋・骨系疾患	
10	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	消化器・腎泌尿器・生殖器疾患	
11	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	循環器・呼吸器疾患	
12	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	児童虐待①	
13	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	児童虐待②	
14	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	先天異常・遺伝病・障がい児	
15	小児の疾患 （患児・家族との接し方）	腫瘍性疾患、子どもの死	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	医療関連論 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	作業療法学科教員 各分野の非常勤講師		
使用教材	教科書・資料・プロジェクターなど							
科目概要	オムニバス形式により、栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防の基礎を学習する。							
実務経験と授業科目の関連	・各分野の実務経験を活かし、リハビリテーション医療に関連する分野についてオムニバス形式により講義・演習する。							
到達目標	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養うとともに、高度化する医療ニーズに対応するため栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学、予防の基礎を学ぶ。							
評価方法基準	・規定の出席日数を満たす。 ・各授業において、それぞれ試験を行い６割以上の得点を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を公表し、合格点に満たない学生に関しては、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
2	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
3	栄養学	食品の持つ栄養素や、その働き	
4	臨床薬学	薬物の基本的事項	
5	臨床薬学	対象疾患に対する薬物療法 薬物の副作用	
6	臨床薬学	対象疾患に対する薬物療法 薬物の副作用	
7	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
8	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
9	画像診断学	Xp・CT・MRI・超音波エコーなどの診かた	
10	救急救命医学	救急医学の基礎	
11	救急救命医学	救急医学の基礎	
12	救急救命医学	救急法演習	
13	予防の基礎	予防の基礎・重要性	
14	予防の基礎	健康管理	
15	試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	臨床心理学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	非常勤講師		
使用教材	臨床心理学のすべてがわかる本（ナツメ社） 教員作成資料他							
科目概要	臨床心理学の授業では、心理的問題の理解と支援に関する理論と実践を学ぶ。主なテーマには、心理アセスメント、カウンセリング技法、精神疾患の診断と治療、危機介入、倫理的課題などが含まれる。認知行動療法や精神分析などのアプローチを比較し、実際のケースを通じて応用力を養う。心理支援の現場（医療・教育・福祉など）での役割を理解し、専門家としての姿勢やスキルを習得することを目指す。							
実務経験と授業科目の関連	臨床心理士及び公認心理師の実務経験を活かし、臨床心理学の概要、歴史、心理検査、実践について解説する							
到達目標	1，臨床心理学理論や技法について学び、医療の臨床場面での患者理解に役立てることができる 2，自分自身や他者への理解を深めることができる							
評価方法基準	・期末試験の結果　６０点以上を合格とする ・授業出席数を満たす							
成績評価のフィードバック	1，前期末に試験を行い、その結果を公表する。 2，合格点に満たない学生には、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床心理学とは	臨床心理学とは	
2	臨床心理学とは	歴史	
3	臨床心理学とは	基礎	
4	心の動き	葛藤・防衛機制・ストレス	
5	心の動き	学習理論・記憶・思考	
6	心の発達	心の発達	
7	心理アセスメント		
8	心理検査	概要	
9	心理検査	実践	
10	精神疾患	精神疾患	
11	心理療法	薬物療法	
12	心理療法	実践	
13	メンタルヘルス	青年期のメンタルヘルス	
14	授業のまとめ	試験対策と講義のまとめ	
15	試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	リハビリテーションの理念Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	林　幸彦		
使用教材	教員作成のプリント・資料 参考文献：リハビリテーション総論（診断と治療社）							
科目概要	リハビリテーションの理念Ⅰの授業では、「リハビリテーションの定義」とその倫理的側面を学び、患者の尊厳を尊重した支援の重要性を理解する。また、チーム医療の観点から医師・看護師・理学療法士など多職種連携の役割を学び、保健・福祉との関わりを通じて地域社会での支援体制を考察する。さらに、他職種連携の実践的な手法を学び、包括的なケアを提供できる能力を養うことを目的とする。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、 1，リハビリテーションチームの一員である作業療法士に必要な専門職としてのリハビリテーションの理念を解説する。 2，リハビリテーションの定義、歴史、目的など、包括的なリハビリテーションの考え方を解説する。							
到達目標	1, リハビリテーションの定義が言える。倫理綱領が理解できる。 2, チーム医療であることを理解する。 3, 障害分類：ICIDH、ICFのを理解することができる。 4, ＰＴとの違いを理解できる。 5, 作業療法士の役割について、理解することが出来る。 6, リハビリテーションに関わる、他職種について知る。							
評価方法基準	・期末試験の点数が、６０点以上を合格とする。 ・授業出席数を満たす。							
成績評価のフィードバック	・試験結果については通知し、場合によっては解説を行う。 ・本試験が合格に達しない場合には、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	リハビリテーションの定義 リハビリテーションとは？	リハビリテーションの定義を理解する 倫理綱領（日本作業療法士協会）解説	
2	社会福祉をめぐる社会理念	ノーマライゼーション、バリアフリー、 ユニバーサルデザイン	
3	医療・保険・福祉との関わり方	医学的リハビリテーション 職業的・社会的リハビリテーション	
4	保健・福祉とリハビリテーション	保健・福祉とリハビリテーションの関連性を知る	
5	リハビリテーション・マインド	リハビリテーション・マインドの重要性	
6	私たちの大切な医療チーム 他職種との関わり	リハビリテーション科医、理学療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具士、社会福祉士、臨床心理士などとの関わり	
7	私たちの大切な医療チーム 他職種との関わり	リハビリテーション科医、理学療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具士、社会福祉士、臨床心理士などとの関わり	
8	私たちの大切な医療チーム 他職種との関わり	リハビリテーション科医、理学療法士、言語聴覚士、看護師、義肢装具士、社会福祉士、臨床心理士などとの関わり	
9	作業療法と作業療法士	作業療法の役割、実際	
10	病気と障害	医学の歴史	
11	疾患と障害の関係	国際障害分類（ICIDH）	
12	疾患と障害の関係	国際生活機能分類（ICF）	
13	廃用症候群	筋肉、関節、骨、心血管	
14	廃用症候群	呼吸器、消化器、皮膚	
15	期末試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	リハビリテーションの理念Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	林　幸彦		
使用教材	教員作成資料							
科目概要	「リハビリテーションの理念Ⅱ」では、自立支援を軸に、就労支援や社会保障の観点からリハビリテーションの役割を学ぶ。地域包括ケアシステムの中でのリハビリの重要性を理解し、医療・福祉・行政との連携を通じた包括的支援を考察する。他職種連携の実践的な意義を学び、多職種協働の必要性を具体的事例を通じて深く理解することを目的とする。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験の実務経験を活かし、 ・リハビリテーションの理念Ⅰで学習したことを基に、医療だけでなく保険・福祉あるいはいろいろな福祉制度に関して学習する。 ・リハビリテーション評価について、重要性・考え方・疾患別評価項目などについて学習する。							
到達目標	・自立支援、就労支援、社会保障、地域包括ケアシステムについて理解し、患者さんに十分な説明が出来るようにする。 ・ICIDH、ICFに即した、あるいは疾患別に評価項目を整理することが出来るようにする。							
評価方法基準	・授業に必要な出席日数を満たす。 ・期末試験において６割以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	・試験結果を公表する。 ・合格点に満たない場合には、再試験を１回行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	職業倫理	作業療法士の倫理 他職種の倫理	
2	リハビリテーション評価	機能障害の評価	
3	リハビリテーション評価	能力障害の評価	
4	リハビリテーション評価	社会的不利の評価	
5	社会保障論	日本の社会保障制度	
6	社会保障論	社会保障とは	
7	社会保障論	社会保障の種類	
8	就労支援	就労支援とは 就労支援の種類	
9	就労支援	障害者総合支援法 各種サービスと療法士のかかわり	
10	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムとは 地域における療法士のかかわり	
11	他職種連携	他学科との他職種連携・演習	
12	他職種連携	他学科との他職種連携・演習	
13	他職種連携	他学科との他職種連携・演習	
14	他職種連携	他学科との他職種連携・演習	
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	作業療法学科 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	石森恵子		
使用教材	プリント、視覚教材							
科目概要	作業療法を実践できるようになるための意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学ぶ態度を身につける。 作業療法士としての基本事項をふまえるために、必要な教育体系や多職種との関係を理解する。 作業療法を実践するために一連の過程を習得する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、総合的に作業療法の業務内容について、専門職として必要な資質について確認しながら講義を行う。							
到達目標	1　作業療法における作業の意味を説明することができる 2　作業療法の定義を述べることができる 3　作業療法の領域と実践場所について、その特徴に気づくことができる 4　作業療法の実践の過程について手順の項目ごとに述べることができる 5　国立障害者リハビリテーションセンターの役割を理解することができる							
評価方法基準	筆記試験（７０％）、小テスト（２０％）、レポート（１０％）							
成績評価のフィードバック	授業の初めに前回のまとめ、終わりに今回のまとめのフィードバックを行う。レポート返却時にコメントする。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	他職種連携におけるチームアプローチ	リハビリテーションチームの構成メンバー	
2	作業療法の教育	作業療法の教育体系	
3	作業療法とは	生活を構成する作業療法	
4	作業療法の領域	作業療法の実践場所	
5	作業療法とは	作業療法の紹介ー身障・精神障害分野	
6	作業療法とは	作業療法の紹介ー発達・老年期障害分野	
7	医療福祉制度	医療保険制度について	
8	医療福祉制度	診療報酬とその請求の仕組み	
9	医療福祉制度と作業療法の管理運営	単位制と施設基準	
10	作業療法の管理運営	作業療法の定義、PT・OT法	
11	作業療法の管理、運営	作業療法の流れ	
12	見学実習	国立障害者リハビリテーションセンター	
13	見学実習	国立障害者リハビリテーションセンター	
14	見学実習	国立障害者リハビリテーションセンター	
15	見学実習	国立障害者リハビリテーションセンター	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	基礎作業学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人		
使用教材	1，教員作成のプリント・資料							
科目概要	1，身体障害・精神障害・老年期障害・発達障害分野の作業療法でよく用いられる手工芸の製作工程を実践する。 2，作業の工程や動作などを客観的に観察・分析する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての実務経験に基づき、各領域の作業療法場面で用いられる手工芸について講義し演習を行う。							
到達目標	1，作業療法における作業活動について理解できる。 2，安全への配慮を完全にする。 3，材料・道具・作品管理をする。 4，他者とコミュニケーションを取り楽しく学ぶ。							
評価方法基準	・指示に従い時間を守り、安全に配慮する。　・ 他者と適切にコミュニケーションがとれる。 ・道具・材料・作品管理ができる。 ・成績評価：出席を満たす。期限内作品・課題提出。上記項目の行動観察（基準は教員）							
成績評価のフィードバック	1，作業の基本をその都度指導する。 2，課題に対しフィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	基礎作業学について	
2	オリエンテーション	自己紹介・教室案内など	
3	導入	工程分析説明、課題	
4	革細工	説明	
5	革細工	細工	
6	革細工	細工	
7	革細工	細工	
8	革細工	細工	
9	革細工	染色	
10	革細工	染色	
11	革細工	仕立て（組み立て）	
12	革細工	仕立て（組み立て）	
13	革細工	仕上げ	
14	ネット手芸	細工	
15	ネット手芸	仕上げ	

回	単元	内容	備考
16	オリエンテーション	後期授業内容について	
17	籐細工	細工	
18	籐細工	細工	
19	籐細工	細工	
20	籐細工	染色	
21	マクラメ	細工	
22	陶芸	粘土作り、土練り	
23	陶芸	成形、仕上げ	
24	陶芸	釉薬がけ	
25	陶芸	作品鑑賞会	
26	陶芸	後片付け・道具の整理	
27	課題	骨スケッチ（課題）	
28	課題	骨スケッチ（課題）	
29	課題	工程分析課題	
30	まとめ	まとめ・大掃除	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">作業療法管理学
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">林　幸彦</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教員作成資料</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">作業療法管理学の授業では、病院組織の構造や運営について学び、医療保険・介護保険制度の理解を深める。さらに、作業療法士としての職業倫理を重視し、適切なリスク管理やチーム医療の実践についても考察する。医療・福祉分野での管理能力を養い、患者に質の高い作業療法を提供できるよう、制度や法律、経営の視点を学ぶことを目的とする。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">近年医療現場では、人材育成、医療安全管理、経営管理などの必要性も高まり、療法に専念するだけでなく組織の管理運営にも責任を負う時代となった。本講義では、このことを背景に、作業療法士としての実務経験を活かし、組織の管理運営に必要な知識・考え方を学習する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">・管理学の位置づけ、組織マネジメント、医療安全、医療サービスについて理解できる。
・作業療法業務の実際について理解できる。
・作業療法の職域、職業倫理、作業療法を取り巻く諸制度について理解できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">・必要な授業出席日数を満たす。
・期末試験において、６割以上成績を達成した学生に単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">・試験結果を公表する
・合格点に満たない場合、再試験を行う。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☑　なし
☐　あり</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	第１章　病院・施設の機能と組織	病院と診療所の違い 病院の機能	
2	第１章　病院・施設の機能と組織	病院の組織	
3	第１章　病院・施設の機能と組織	病院の組織種類	
4	第２章　作業療法士の職域	作業療法士の制度別活動範囲 作業療法士の分野別活動範囲	
5	第３章　医療保険	医療保険の仕組み 医療提供体制	
6	第３章　医療保険	施設基準 診療報酬	
7	第４章　介護保険	介護保険制度 介護保険の仕組み	
8	第４章　介護保険	介護保険給付サービスの種類	
9	第５章　理学療法士及び作業療法士法	理学療法士・作業療法士法	
10	第６章　作業療法士が知っておくべき倫理	職業倫理とは？医療倫理の原則 理学療法士・作業療法士の義務	
11	職場における自己管理	メンタルヘルス	
12	職場における自己管理	メンタルヘルス	
13	職場における自己管理	メンタルヘルス	
14	職場における自己管理	メンタルヘルス	
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	老年期障害作業療法評価学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	石森恵子		
使用教材	標準作業療法学　専門分野　老年期作業療法学							
科目概要	高齢期の特徴を理解する。 高齢期に多い疾患について理解する。 認知症の定義・病態・分類について理解する。 高齢者の姿勢や活動を分析し特徴を理解する。 作業療法士としての実務経験に基づき、上記事項を理解するための講義をする。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、総合的に作業療法の業務内容について、専門職として必要な資質について確認しながら講義を行う。							
到達目標	1　高齢期の心身の特徴と心理的特徴を説明できる。 2　認知症とはどういうものか説明できる。 3　認知症の分類を説明することができる。 4　代表的な認知症疾患について説明できる。 5　高齢者の身体的な特徴を理解し、活動分析を行うことができる。							
評価方法基準	後期末に筆記試験を行い総合的に６０点以上得点した者に単位を認定する。 また、授業中に小テストを実施する。（筆記試験　８０％、小テスト２０％）							
成績評価のフィードバック	授業の初めに前回のまとめ、終わりに今回のまとめのフィードバックを行う。 レポート返却時にコメントする。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	高齢期の一般的特徴	循環機能・呼吸器系・消化器系・腎機能・排泄機能・内分泌系・体温調節機能の加齢変化	
2	高齢期の一般的特徴	免疫・血液及び造血系・生殖器系・感覚・運動器系の加齢変化	
3	高齢期の一般的特徴	老年症候群と高齢者に多く見られる症状	
4	高齢期の一般的特徴	バイタルサインの見方・検査の見方	
5	高齢期の一般的特徴	食事と嚥下障害、睡眠、清潔、排泄および尿失禁	
6	高齢期に多い疾患	褥瘡、筋骨格系の病気、感染症	
7	高齢期に多い疾患	整形疾患、呼吸器疾患、精神疾患	
8	高齢期に多い疾患	腎・内分泌疾患、循環器疾患、中枢疾患	
9	認知症	病態・分類	
10	認知症	認知症をきたす代表疾患	
11	認知症	認知症をきたす代表疾患	
12	姿勢・活動分析	姿勢について	
13	姿勢・活動分析	姿勢分析	
14	姿勢・活動分析	活動を分析するということについて	
15	姿勢・活動分析	活動分析	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	前期	形態	演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	2
科目名	身体障害作業療法評価学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小林雅津良		
使用教材	教科書・プリント（適宜配布）							
科目概要	講義及び実技により技術を習得する。 主に下記の評価・測定法を理解し実践できるようにする。 1　関節可動域測定法 2　徒手筋力測定法 3　感覚検査							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての実務経験に基づき、身体障害作業療法の領域で用いられる身体機能の測定法を講義し演習を行う。							
到達目標	1　健常者を対象にして評価・測定法実施できる。 2　安全に配慮できる。 3　適切な接遇に配慮できる。 4　検査結果を分析・解釈・統合する過程を理解できる。 5　各種評価・測定法を構成する基礎知識の再確認できる。							
評価方法基準	1　授業毎に小テストを実施し、基準以上の得点により成績に加算する。 2　実技試験を実施する。実技試験合格すること。 3　レポート課題の期日までの提出。 4　規定の出席数を満たす。 5　期末試験で60点以上得点すること。（期末試験のみ再試験合格可）							
成績評価のフィードバック	1　小テストの得点に応じて個別に指導を行う。 2　実技においての安全性と、社会人としての接遇について適宜指導する。 3　レポートの内容に応じて加算する。 4　期末試験本試験後、得点に応じて再試験に向けての講義を行う							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 解剖学・運動学で学んだ骨・筋肉・神経といった身体構造の知識の再確認が必要。座学のみでなく健常者への測定を通した学習のため、安全に対する認識と、社会人としての接遇について考察する。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	評価法	コースオリエンテーション	
2	ICF	評価法・考え方	
3	関節可動域測定	測定方法	
4	関節可動域測定	注意事項	
5	関節可動域測定	上肢の測定（実技演習）	
6	関節可動域測定	上肢の測定（実技演習）	
7	関節可動域測定	下肢の測定（実技演習）	
8	関節可動域測定	下肢の測定（実技演習）	
9	実技試験について	実技試験詳細説明	
10	徒手筋力検査法	評価方法説明	
11	徒手筋力検査法	注意事項説明	
12	徒手筋力検査法	頭頚部の測定（実技演習）	
13	徒手筋力検査法	体幹の測定（実技演習）	
14	徒手筋力検査法	上肢・肩甲帯の測定（実技演習）	
15	徒手筋力検査法	手指の測定（実技演習）	

回	単元	内容	備考
16	徒手筋力検査法	下肢の測定（実技演習）	
17	徒手筋力検査法	下肢の測定（実技演習）	
18	実技試験	関節可動域測定法・徒手筋力検査法	
19	実技試験	関節可動域測定法・徒手筋力検査法	
20	感覚検査	感覚検査説明	
21	感覚検査	表在感覚（実技演習）	
22	感覚検査	表在感覚・深部感覚（実技演習）	
23	感覚検査	深部感覚（実技演習）	
24	期末試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	後期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	2
科目名	高次神経障害作業療法評価学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小松　博幸		
使用教材	病気がみえるvol７　脳・神経第２版（メディック・メディア）							
科目概要	高次脳機能に含まれる言語の受容と発現、視覚・聴覚・空間把握等の感覚刺激の認知、行為・記憶・注意・遂行機能等の複雑なメカニズムを理解し、それらの障害に対する適切な検査・評価技法を身につける。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、高次脳機能に含まれる、言語、感覚、記憶、注意、遂行等のメカニズムについて解説し、それらの障害に対する検査・評価技能を修得する講義・演習を行う。							
到達目標	高次脳機能に含まれる、言語の受容と発現、視覚・聴覚・空間把握等の感覚刺激の認知、記憶・注意・遂行機能の複雑なメカニズムを理解し、それらの障害に対する適切な検査・評価技法を身につける。							
評価方法基準	試験の成績、レポート等を総合的に判断し、６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を提示し、答案は返却する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総論	高次神経障害総論	
2		当事者の体験談	
3	失語	失語の類型	
4		各失語の特徴	
5		各失語とその関連障害の特徴	
6	失行	失行の分類	
7		各失行の特徴　①	
8		各失行の特徴　②	
9	行為・行動の抑制障害	行為・行動の障害の特徴	
10	把握現象	各把握現象の特徴	
11	運動・動作の開始・出力・維持の障害	運動・動作の障害の特徴	
12	失認	失認の類型	
13		各失認の特徴	
14	無視症候群	無視症候群の特徴　①	
15		無視症候群の特徴　②	

回	単元	内容	備考
16		無視症候群の特徴　③	
17	意識障害	意識の要素とその障害	
18	記憶障害	記憶障害の類型	
19		各記憶障害の特徴	
20	注意障害	注意の要素	
21		各注意障害の特徴	
22	遂行機能障害	遂行機能の要素	
23		遂行機能障害の特徴	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	3
科目名	精神障害作業療法評価学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小松　博幸		
使用教材	作業療法学全書第５巻　作業治療学２　精神障害（協同医書出版）							
科目概要	それぞれの精神疾患における症状・障害の特徴を理解し、精神科作業療法の目的や役割、適切な検査・評価法を身につけられるように解説・演習を行う。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、それぞれの精神疾患における障害のとらえ方、作業療法の目的と役割や適切な検査・評価法を理解し、身につけられるように解説、演習を行う。							
到達目標	それぞれの精神疾患における症状・障害のとらえ方、精神科作業療法の目的や役割、適切な検査・評価法を身につける。							
評価方法基準	試験の成績、レポート等を総合的に判断し、６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を掲示し、答案は返却する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	精神疾患の分類	従来の分類、ICD、DSM	
2	精神症状	各精神症状の特徴	
3	意識障害	意識の要素とその障害	
4	知能の障害	知能の障害と分類	
5	感情の障害	感情の種類とその障害	
6	意思の障害	意志とその障害	
7	知覚の障害	知覚の種類とその障害	
8	思考の障害	思考とその障害	
9	精神症状	主な精神症状	
10	精神科における面接	精神科の面接の特徴	
11	心理検査	各種心理検査法	
12	社会生活の障害	社会生活の評価法	
13	統合失調症	統合失調症の類型	
14		統合失調症の特徴　①	
15		統合失調症の特徴　②	

回	単元	内容	備考
16	気分（感情）障害	気分（感情）障害の類型	
17		気分（感情）障害の特徴	
18	不安障害	不安障害の類型　従来の分類　ICD　DSM	
19		各種不安障害の症状　①	
20		各種不安障害の症状　②	
21	摂食障害	摂食障害の類型	
22		各摂食障害の特徴	
23	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の類型	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	発達障害作業療法評価学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小林雅津良		
使用教材	教科書及びプリント（適宜配布する）							
科目概要	発達障害作業療法の基本的な理解ができるように関連事項について理解を深める。 関連事項とは、 1 理念・目的 2 歴史 3 正常発達（運動機能・精神機能・社会性） 4 法律・地域・制度　である。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての経験に基づき、上記のことを実践的に講義する。							
到達目標	① 発達障害作業療法の理念と目的について述べることができる。 ② 発達障害作業療法の形成（歴史）と変遷について述べることができる。 ③ 健常児の発達過程（運動・精神・社会）について述べることができる。 ④ 関連する法規・制度について理解を深める。 ⑤ 作業療法士に求められる役割と資質を述べることができる。							
評価方法基準	1 授業毎に小テストを実施し、基準以上の得点により成績に加算する。 2 課題を課す。実施し定期的に提出すること。 3 レポート課題の期日までの提出。 4 規定の出席数を満たす。 5 期末試験で60点以上得点すること。（期末試験のみ再試験合格可） 上記をすべて満たすことが、単位認定条件。							
成績評価のフィードバック	1 小テストの得点に応じて個別に指導を行う。 2 課題の進捗状況に応じて個別に指導を行う。 3 レポートの内容に応じて加算する。 4 期末試験本試験後、得点に応じて再試験に向けての講義を行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 解剖学・運動学で学んだ骨・筋肉・神経といった身体構造の知識の再確認が必要。さらに、心理学、人間発達学、小児科学など幅広い分野の知識も必要になるため復習であったり、同時進行での学習が必要である。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コースオリエンテーション	科目学習方法説明	
2	課題説明	国家試験課題・実力試験について	
3	発達障害作業療法の歴史	形成と変遷	
4	正常発達	総論・原理と原則・原始反射	
5	正常運動発達	0～６か月	
6	正常運動発達	6～12か月・12か月以降	
7	正常運動発達	眼と手の協調性・運動発達まとめ	
8	正常発達	スクリーニング試験・デンバー・遠城寺式	
9	摂食・嚥下の発達	解剖・運動・実技演習	
10	知的機能検査	WISC－Ⅲ、Ⅳ・K-ABCなど	
11	知的機能検査	知的機能検査実習	
12	知的機能検査	知的機能検査実習	
13	知的機能検査	知的機能検査実習	
14	摂食・嚥下の発達	解剖・運動・実技演習	
15	後期期末試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	90	対象年次	2
科目名	身体障害作業療法治療学Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	袴田　亮一		
使用教材	作業療法学全書　身体障害、作業療法技術ガイド、その他配布資料							
科目概要	作業療法士の実務経験を活かし、疾病・外傷により中枢神経系、末梢神経系、筋骨格、関節、感覚器官に損傷を学ぶ。また、心身機能・身体構造が障害された状態に対しての基礎知識と治療の理解を深める。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、身体障害作業療法治療学分野のそれぞれの疾患の特徴や、それによって生じる障害に対して適切な検査・評価や治療を実施するための知識が得られるよう解説する。							
到達目標	・各種検査法を理解し、健常者を対象に実施できるようになる。 （検査法の演習は身体障害評価学と合同で行う） ・検査結果を分析・解釈・統合する過程を理解する。 ・代表者対象疾患の基本的症状と障害を理解する。 ・代表的対象疾患の作業療法と評価との関連を理解する。							
評価方法基準	前・後期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	合格者は試験の結果を通知する（不合格者については個別対応）							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	本講義の内容と流れの説明	
2	〃	概論の説明	
3	関節可動域測定	関節可動域測定演習	
4	〃	〃	
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	徒手筋力検査	徒手筋力検査演習	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	実技試験	関節可動域測定、徒手筋力検査実技試験	

回	単元	内容	備考
16	〃	〃	
17	脳血管障害	疾患の成り立ちと症状	
18	〃	〃	
19	〃	片麻痺の検査と治療原則	
20	〃	吸引について（講義・実技）	
21	失調症	症状と治療原則	
22	〃	〃	
23	前期のまとめ	前期のまとめ	
24	前期末試験	筆記試験	
25	不随意運動	分類と症状の特徴	
26	〃	〃	
27	頚髄損傷	損傷レベルと残存機能	
28	〃	〃	
29	〃	機能レベルとADL	
30	〃	〃	

回	単元	内容	備考
31	関節リウマチ	疾患の成り立ち、変形、関節保護法	
32	〃	〃	
33	パーキンソン病、頸椎症	疾患の成り立ち、症状	
34	〃	〃	
35	手の外傷、腱損傷、末梢神経損傷	疾患の成り立ちと治療	
36	〃	〃	
37	熱傷、骨折	疾患の成り立ちと治療	
38	〃	〃	
39	心疾患、心電図	心疾患、心電図の基礎	
40	〃	〃	
41	血圧測定、上肢機能検査	血圧測定実習、上肢機能検査、片麻痺機能検査実習	
42	〃	〃	
43	関節モビライゼーション	関節モビライゼーション実習	
44	〃	〃	
45	期末試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	身体障害作業療法治療学Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	袴田　亮一		
使用教材	脳卒中最前線、その他配布資料							
科目概要	作業療法士の実務経験を活かし、臨床（臨床実習）に向けて必要な分析や結果の説明ができるよう、症例検討等を通じながら実践可能を目指す。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、身体障害作業療法治療学分野のそれぞれの疾患の特徴や、それによって生じる障害に対して適切な検査・評価や治療を実施するための知識が得られるよう解説する。							
到達目標	・作業分析ができる。 ・検査結果の背景が説明できる。 ・障害構造が説明できる。 ・問題点を抽出できる。 ・治療プログラムを立案できる。							
評価方法基準	レポートと期末の筆記試験にて行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。							
成績評価のフィードバック	合格者は試験の結果を通知する（不合格者については個別対応）							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	本講義の内容と流れの説明	
2	症例検討①	症例検討①－１	
3	〃	症例検討①－２	
4	〃	症例検討①－３	
5	〃	症例検討①－４	
6	症例検討②	症例検討②－１	
7	〃	症例検討②－１	
8	〃	症例検討②－１	
9	〃	症例検討②－１	
10	症例検討③	症例検討③－１	
11	〃	症例検討③－２	
12	〃	症例検討③－３	
13	〃	症例検討③－４	
14	〃	症例検討③－５	
15	期末試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	3
科目名	精神障害作業療法治療学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小松　博幸		
使用教材	作業療法学全書第５巻　作業治療学２　精神障害（協同医書出版）							
科目概要	それぞれの精神疾患における症状・障害の特徴を理解し、精神科作業療法の目的や役割、適切な検査・評価法を身につけられるように解説・演習を行う。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、それぞれの精神疾患における障害のとらえ方、作業療法の目的と役割や適切な検査・評価法を理解し、身につけられるように解説、演習を行う。							
到達目標	それぞれの精神疾患における症状・障害のとらえ方、精神科作業療法の目的や役割、適切な検査・評価法を身につける。							
評価方法基準	試験の成績、レポート等を総合的に判断し、６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を掲示し、答案は返却する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	パーソナリティ障害	各パーソナリティ障害の特徴　①	
2		各パーソナリティ障害の特徴　②	
3		各パーソナリティ障害の特徴　③	
4		各パーソナリティ障害の特徴　④	
5	てんかん	てんかんの類型	
6		各てんかん発作の特徴	
7	精神遅滞（知的障害）	精神遅滞（知的障害）の分類	
8		各精神遅滞（知的障害）の特徴	
9	心理的発達の障害	心理的発達の障害の類型	
10		各心理的発達の障害の特徴　①	
11		各心理的発達の障害の特徴　②	
12		各心理的発達の障害の特徴	
13	精神作用物質による精神および行動の障害	精神作用物資の種類	
14		各精神作用物資の特徴　①	
15		各精神作用物資の特徴　②	

回	単元	内容	備考
16		各精神作用物資の特徴　③	
17	精神療法	精神療法の分類	
18		各精神療法の特徴	
19	防衛機制	各防衛機制の特徴　①	
20		各防衛機制の特徴　②	
21	入院形態	精神科病院の入院形態	
22	医療観察法	医療観察法の概要	
23	リスクマネジメント	精神科分野のリスクマネジメントの特徴	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>30</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">発達障害作業療法治療学
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">小林雅津良</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">教科書及びプリント（適宜配布）</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">発達障害作業療法の主たる対象疾患について下記事項の理解を深める。
① 臨床像
② 作業療法評価
③ 発達過程の滞り
④ 医学的治療と作業療法治療
⑤ 治療・指導。援助内容</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">作業療法士としての実務経験に基づき、実践的な授業展開を実施して臨床実習での実践がスムーズにできるようにする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">① 主たる対象疾患の病態像・臨床像について説明できる。
② 主たる対象疾患の作業療法評価項目を列挙できる。
③ 疾患特有の評価法を実施できる。
④ 評価結果から対象児の制限・制約・利点について説明できる。
⑤ 対象疾患特有の対応課題と作業療法の目標について説明できる。
⑥ 治療・指導・援助内容・また方法・手段・手順について説明できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">1 授業毎に小テストを実施し、基準以上の得点により成績に加算する。
2 課題を課す。実施し定期的に提出すること。
3 レポート課題の期日までの提出。
4 規定の出席数を満たす。
5 期末試験で60点以上得点すること。（期末試験のみ再試験合格可）</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">1 小テストの得点に応じて個別に指導を行う。
2 課題の進捗状況に応じて個別に指導を行う。
3 レポートの内容に応じて加算する。
4 期末試験本試験後、得点に応じて再試験に向けての講義を行う。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり
解剖学・運動学で学んだ骨・筋肉・神経といった身体構造の知識の再確認が必要。さらに、心理学、人間発達学、小児科学・内科学・神経内科学・整形外科学など幅広い分野の知識も必要になるため復習であったり、同時進行での学習が必要である。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コースオリエンテーション	科目学習方法説明	
2	課題説明	国家試験課題・実力試験について	
3	発達障害作業療法治療学	総論・実力診断テスト	
4	脳性麻痺	総論	
5	脳性麻痺	障害像・作業療法評価・治療・援助	
6	重症心身障害児（者）	総論	
7	重症心身障害児（者）	評価・治療・援助・制度・シーティング等	
8	分娩麻痺	総論・評価・治療・援助	
9	先天性疾患	疾患特性・評価・治療・援助	
10	二分脊椎症	総論・評価・治療・援助	
11	筋ジストロフィー	総論・評価・治療・援助	
12	知的発達障害	総論・評価・治療・援助	
13	軽度発達障害	総論・評価・治療・援助	
14	感覚統合療法	感覚統合療法総論	
15	前期期末試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	3
科目名	老年期障害作業療法治療学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	石森恵子		
使用教材	標準作業療法学　高齢期作業療法学　医学書院、認知症の辞典　成美堂出版							
科目概要	高齢社会を理解できる。高齢期の課題を理解できる。 作業療法実践の基本的枠組みを理解できる。 一般高齢者に対する作業療法の在り方を理解できる。 介護予防の作業療法について理解できる。 認知症高齢者に対する作業療法の在り方を理解できる。 症例を通して、高齢者作業療法を実施するために必要な知識や役割を認識することができる。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、学生が授業を通じて高齢期の作業療法の業務内容の実際や資質を確認し専門職としてあるべき知識・技能・態度を高めることを目指す。							
到達目標	1　病期に応じた治療・援助内容について説明できる。 2　実施場所に応じた援助内容について説明できる。 3　高齢者の生活を予測する力を身につけ、高齢者に対する作業療法の目標、設定と計画立案についての考え方を説明できる。 4　認知症に対して病態・分類を理解し、作業療法の実践について説明できる。 5　認知症ライフパートナー検定の合格を目指す							
評価方法基準	前期末に筆記試験を行い60点以上を合格とする。認知症ライフパートナーの3級を受験する。その結果に基づいて評価を行う。（筆記試験８０％、検定試験20％）							
成績評価のフィードバック	授業開始に前回のまとめ、終わりに今回のまとめのフィードバックを行う。また、授業中にグループワークを行ったり、質疑応答でも内容の理解に努める							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	高齢期作業療法学の基礎	高齢社会　日本の現状、社会施策の変遷	
2	高齢期作業療法学の基礎	高齢期の課題、高齢者に関する法律と制度の変化	
3	高齢期作業療法の実践	病期に応じた治療・援助内容の違い、実施場所に応じた治療・援助内容の違い①	
4	高齢期作業療法の実践	病期に応じた治療・援助内容の違い、実施場所に応じた治療・援助内容の違い②	
5	高齢期作業療法の実践	高齢期作業療法の評価から治療までの流れ	
6	高齢期作業療法の実践事例	症例検討①介護予防ケース	
7	高齢期作業療法の実践事例	症例検討②要支援のケース	
8	認知症とは	認知症の定義、認知症の病態①（４タイプ）	
9	認知症とは	認知症の病態②（４タイプ）	
10	高齢期作業療法の実践事例	症例検討③要介護者のケース（Ⅰ）	
11	認知症の症状	中核症状・周辺症状	
12	高齢期作業療法の実践事例	症例検討③要介護者のケース（Ⅱ）	
13	認知症の症状	周辺症状の理解と対応	
14	認知症の評価	全体像をどうとらえるか、神経心理学的検査法	
15	認知症の評価	行動観察尺度、ADL評価尺度他	

回	単元	内容	備考
16	認知症の症状	認知症とコミュニケーション、認知症の人へのケアのポイント	
17	認知症の作業療法	認知症作業療法のケアのポイント	
18	認知症の作業療法	DVD鑑賞　毎日がアルツハイマー①	
19	認知症の作業療法	認知症とアクティビティ	
20	認知症の作業療法	DVD鑑賞　毎日がアルツハイマー②	
21	認知症の作業療法	軽度認知症高齢者のケース	
22	認知症の作業療法	中等度認知症高齢者のケース	
23	認知症の作業療法	重度の認知症高齢者のケース	
24	認知症について	認知症ケアに関する社会資源（成年後見制度）	
25	認知症の作業療法	DVD鑑賞　明日の記憶	
26	外来講師授業	老人保健施設における作業療法士の役割	
27	外来講師授業	老人保健施設における作業療法士の役割	
28	外来講師授業	脳神経外科病院における作業療法士の役割	
29	外来講師授業	脳神経外科病院における作業療法士の役割	
30	前期試験		

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	高次神経障害作業療法治療学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小松　博幸		
使用教材	病気がみえるvol７　脳・神経再2版（メディック・メディア）							
科目概要	高次脳機能に含まれる言語の受容と発現、視覚・聴覚・空間把握等の感覚刺激の認知、行為・記憶・注意・遂行機能等の複雑なメカニズムを理解し、それらの障害に対する適切な検査・評価技法を身につける。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、高次脳機能に含まれる、言語、感覚、記憶、注意、遂行等のメカニズムについて解説し、それらの障害に対する検査・評価技能を修得する講義・演習を行う。							
到達目標	高次脳機能に含まれる、言語の受容と発現、視覚・聴覚・空間把握等の感覚刺激の認知、記憶・注意・遂行機能の複雑なメカニズムを理解し、それらの障害に対する適切な検査・評価技法を身につける。							
評価方法基準	試験の成績、レポート等を総合的に判断し、６０点以上を合格とする。							
成績評価のフィードバック	試験結果を提示し、答案は返却する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	脳の可塑性と高次脳機能障害	脳の可塑性	
2		脳の可塑性と高次脳機能の治療理論　①	
3		脳の可塑性と高次脳機能の治療理論　②	
4		脳の可塑性と高次脳機能の治療法　①	
5		脳の可塑性と高次脳機能の治療法　②	
6		脳の可塑性と高次脳機能の治療法　③	
7		脳の可塑性と高次脳機能の治療法　④	
8	神経心理学的検査	神経心理学的検査の進め方	
9		各種神経心理学的検査　①	
10		各種神経心理学的検査　②	
11		各種神経心理学的検査　③	
12		各種神経心理学的検査　④	
13		各種神経心理学的検査　⑤	
14		各種神経心理学的検査　⑥	
15		各種神経心理学的検査　⑦	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	2
科目名	義肢・装具学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	林　幸彦		
使用教材	・教員作成の資料・プリント ・義手実物　・装具実物							
科目概要	義肢装具学の授業では、義肢（義手・義足）や装具の基礎知識、種類や機能、適応疾患について理解し、臨床応用やリハビリテーションへの活用を考察する。また、装着者の生活の質（QOL）向上を目的とした適切な適合調整や評価方法についても学び、リハビリテーション医療における役割を理解する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、基本的な義肢の知識と技術を身につけるために講義を行う。 臨床場面においても義肢装具を装着している患者さんは多く、取り扱う知識・技術が必要とされる。							
到達目標	1，義肢装具の目的、機能を理解する。 2，義肢装具の使用法を理解し、必要な基本的技術を習得する。 3，義肢装具の疾患別機能、効果について理解する。 4，スプリント目的、機能を理解し実際に制作することが出来る。							
評価方法基準	・期末試験の結果　６０点以上を合格とする ・授業出席数を満たす							
成績評価のフィードバック	1，試験を行い、その結果を公表する。 2，合格点に満たない学生には、再試験を行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	切断総論	原因、幻肢・幻肢痛、リハビリテーションの目的、治療の流れ	
2	切断総論	リハビリテーション評価 切断部位における分類、特殊な切断	
3	義肢総論	義肢とは？ 構造と構成要素	
4	義足	股義足	
5	義足	大腿義足（特徴、種類、継手、基本訓練・応用訓練）	
6	義足	大腿義足の異常歩行、膝義足	
7	義足	下腿義足、サイム義足、足部部分義足	
8	義手	機能的分類、切断部位と義手の特徴	
9	義手	義手の構造、継手、ソケット、ハーネス　小テスト	
10	義手	義手の構造、継手、ソケット、ハーネス　小テスト	
11	義手	チェックアウト（前腕義手）　小テスト	
12	義手	チェックアウト（上腕義手）　小テスト	
13	義手	義手の基本操作（前腕義手）	
14	義手	義手の基本操作（上腕義手）	
15	義手	役割、種類、名称	

回	単元	内容	備考
16	装具総論	装具とは？　役割、種類、名称	
17	脳卒中片麻痺の装具	下肢装具	
18	スポーツ障害の装具	役割、種類、名称	
19	小児装具	股関節装具（先天性股関節脱臼、ペルテス病）	
20	体幹装具	目的、分類　頚椎・頚胸椎装具、側弯症装具	
21	スプリント	総論、目的、分類	
22	スプリント	各論　各スプリントの説明	
23	期末テスト	期末テスト	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	2
科目名	日常生活活動 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人		
使用教材	・ADL 実習（中山書店）　　・教員作成の資料、プリント							
科目概要	１．日常生活活動の基本を解説する。 ２．種々の疾患に対して日常生活動作の介助・指導方法を習得するための実技実習を行う。 ３．国家試験問題の解説を実施する。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての実務経験に基づき、身体障害作業療法領域で係わる種々の疾患に対する日常生活動作の介助・指導方法を習得するための講義・実技・演習を行う。							
到達目標	１．日常生活活動とは何かを理解する。 ２．日常生活活動の評価法を理解する。 ３．日常生活活動に対する作業療法士の役割を理解する。 ４．対象者・家族に適切に動作指導が行えるように技術を習得する。 ５．国家試験レベルの問題を正答できる。							
評価方法基準	筆記テスト　：実技テスト・期末テスト(再試験あり) 科目合格条件：出席数を満たす。実技試験合格。期末試験で６０点以上。							
成績評価のフィードバック	筆記試験の採点後、答案を返却する。合否については、学籍番号を掲示する。　実技試験が不合格の者に対して、補習授業を行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 1年次の授業科目（解剖学、運動学）を再復習しておくことが望ましい。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	日常生活活動とは	
2	日常生活活動の種類	ADL、IADL	
3	日常生活活動の評価法	BIについて学び、実践できるようになる	
4	日常生活活動の評価法	FIMについて学び、実践できるようになる	
5	基本動作：実技	健常者の寝返り動作について	
6	基本動作：実技	健常者の起き上がり動作について	
7	基本動作：実技	健常者の立ち上がり･立位動作について	
8	日常生活動作：実技	健常者の更衣動作について	
9	日常生活動作：実技	健常者の移乗動作について	
10	日常生活動作：実技	脳卒中片麻痺患者の基本動作介助	
11	日常生活動作：実技	脳卒中片麻痺患者の更衣動作介助	
12	日常生活動作：実技	脳卒中片麻痺患者の移乗動作介助	
13	実技試験	寝返り～起き上がり～移乗～更衣の介助方法を実演する	
14	実技試験	寝返り～起き上がり～移乗～更衣の介助方法を実演する	
15	期末試験	前期期末試験	

回	単元	内容	備考
16	日常生活動作	車いすの名称や部位を覚える 車いすの操作方法、注意点を理解する	
17	日常生活動作：実技	車いすの介助方法や家族指導について理解する	
18	日常生活動作：実技	脳卒中片麻痺患者の食事動作について	
19	日常生活動作：実技	脳卒中片麻痺患者のトイレ動作について	
20	日常生活動作：実技	関節リウマチ患者のADLについて	
21	日常生活動作：実技	頸髄損傷患者のADLについて	
22	日常生活動作：実技	胸・腰髄損傷患者のADLについて	
23	日常生活動作	福祉用具について理解する	
24	日常生活動作：実技	福祉用具の使い方を指導できるようになる	
25	日常生活動作	自助具について理解する	
26	日常生活動作	杖について理解する	
27	日常生活動作：実技	杖の使い方を指導できるようになる	
28	実技試験	杖歩行の介助について実演する	
29	実技試験	杖歩行の介助について実演する	
30	期末試験	後期期末筆記試験	

履修区分	必修	単位数	3	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	1
科目名	福祉機器・住宅改造論 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	林　幸彦		
使用教材	教員作成の資料・プリント							
科目概要	福祉機器・住宅改造論では、高齢者や障がい者の自立支援と生活の質の向上を目的とした福祉機器の活用や、バリアフリー住宅改造の基本原則を学ぶ。具体的には、福祉用具の種類・機能・適用方法、住宅の段差解消・手すり設置・動線設計などの改修手法を取り上げる。また、法制度や助成制度についても理解を深め、利用者のニーズに基づいた提案力を養う。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、 1，作業療法士は、患者さん、家族から家屋改造の相談を受けた際、適切な説明・対応ができることが求められるため家屋改造に必要な知識を説明する。 2，福祉用具の種類、使い方、選定・適合について必要な知識を説明する。							
到達目標	1，心身障害者（児）や高齢者の生活を支援する福祉機器・家屋改造について理解することができる。 2，福祉機器・住宅改造を導入するする場合に必要な知識と技術を体系的に学習することができる。							
評価方法基準	・期末テストにおいて 6 割以上を合格とする。（再試験有り） ・授業出席数を満たす。							
成績評価のフィードバック	1，合格点に満たない学生には、再試験を行う。 2，課題に対しフィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	第１章　住環境整備	住宅の機能	
2	第１章　住環境整備	日本の住環境の問題点 家庭内事故	
3	第１章　住環境整備	建築の基礎知識	
4	第１章　住環境整備	住宅改造	
5	第１章　住環境整備	住宅改造の検討事項	
6	第１章　住環境整備	住宅改造の助成制度	
7	第２章　福祉用具の適応	日常生活活動における福祉用具の活用 起居・床上動作	
8	第２章　福祉用具の適応	日常生活活動における福祉用具の活用 起居・床上動作	
9	第２章　福祉用具の適応	移動：車椅子、歩行器、杖	
10	第２章　福祉用具の適応	移動：車椅子、歩行器、杖	
11	第２章　福祉用具の適応	移動：車椅子、歩行器、杖	
12	第２章　福祉用具の適応	入浴	
13	第２章　福祉用具の適応	更衣・整容	
14	第２章　福祉用具の適応	排泄	
15	第２章　福祉用具の適応	食事	

回	単元	内容	備考
16	第２章　福祉用具の適応	調理に関する福祉用具 コミュニケーション機器	
17	第２章　福祉用具の適応	介護保険制度における介護用品・福祉用具	
18	第３章　生活を支えるさまざまな用具	生活のなかの問題点と用具の活用 共用品	
19	第３章　生活を支えるさまざまな用具	生活のなかの問題点と用具の活用 共用品	
20	第３章　生活を支えるさまざまな用具	福祉車両	
21	第４章　リハビリテーション機器	評価・検査器具、	
22	第４章　リハビリテーション機器	作業療法室・理学療法室	
23	期末試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	3
科目名	地域作業療法学 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人		
使用教材	・教員作成の資料、プリント							
科目概要	１．地域作業療法を理解するために地域のとらえ方や地域医療、地域におけるリハビリテーションの歩みを講義する。 ２．地域作業療法を支えている制度や施策、社会の流れを背景にした作業療法の実践領域を解説する。また、地域作業療法にかかわる他職種を知り、連携と協働の重要性を解説する。 ３．グループ体操やレクリエーション活動が実施できるよう指導を行う。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士としての実務経験に基づき、地域作業療法に必要な知識を講義にて指導する。また、地域での活動に用いられるレクリエーションついて講義し演習を行う。							
到達目標	１．地域作業療法の概念について理解する。 ２．地域における作業療法士の役割を理解する。 ３．介護保険法について理解する。 ４．福祉用具の選定と活用について理解する。 ５．地域作業療法を実践する。							
評価方法基準	筆記テスト　：期末テスト(再試験あり) 科目合格条件：出席数を満たす。レポート課題の提出。期末試験で６０点以上。							
成績評価のフィードバック	レポートや発表について、成績優秀者を公表する。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 1年次の授業科目(作業療法概論,社会福祉学)を再復習しておくことが望ましい。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	地域作業療法とは	
2	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの成り立ちと背景について	
3	地域リハビリテーションの定義	地域リハビリテーションの定義や活動について	
4	地域作業療法を支える制度	社会保障制度の枠組みや、介護保険制度の趣旨について	
5	地域作業療法に関わる職種	他職種の業務と役割、連携について	
6	手話①	自己紹介をしてみよう 「聞こえない」とは	
7	手話②	あいさつしてみよう 「聴覚障害者とのコミュニケーション方法」	
8	手話③	手話がわからなかったとき 「手話を楽しく覚えよう」	
9	手話④	数字や時間の表現を覚えよう 地域の手話サークル	
10	手話⑤	ろう者が生活で困ること 場所の表現を覚えよう	
11	手話⑥	病気やけがで困ったとき お天気と乗り物の手話を覚えよう	
12	手話⑦	買い物とお金の表現を覚えよう	
13	手話⑧	ろう者の生活を知ろう	
14	手話⑨	交流会を通して今まで学んだ手話を活かして話してみよう	
15	手話⑩	災害に関する手話を学ぼう 医療に関する手話を学ぼう	

回	単元	内容	備考
16	地域についての課題・発表	自分の出身地域の特性や作業療法関連施設について調べ、まとめる。	
17	地域についての課題・発表	自分の出身地域の特性や作業療法関連施設について発表する。	
18	地域についての課題・発表	自分の出身地域の特性や作業療法関連施設について発表する。	
19	グループワーク 高齢者の歌について	高齢者の歌について調べ、時代背景を知る	
20	グループワーク 高齢者の歌について	歌のレクリエーションを集団作業療法として実践できるようにする。	
21	グループワーク 高齢者の歌について	歌のレクリエーションを集団作業療法として実践できるようにする。	
22	グループワーク 高齢者の体操について	高齢者の身体的特徴について理解する。	
23	グループワーク 高齢者の体操について	高齢者に必要な運動を調べ、まとめる。	
24	グループワーク 高齢者の体操について	高齢者に必要な運動を集団作業療法として実践できるようにする。	
25	グループワーク 高齢者の体操について	高齢者に必要な運動を集団作業療法として実践できるようにする。	
26	実習に向けて	医療保険制度や介護保険制度についての復習	
27	実習に向けて	動作観察や動作分析について	
28	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントを理解する。	
29	グループワーク 生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントを実践できるようにする。	
30	期末試験	期末試験	

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>2</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">実習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>90</td><td>対象年次</td><td>2</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">作業療法実習Ⅰ
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">2年担任</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">1，実習要綱
2，実習施設により異なるため、各自で適宜準備する。</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションにおいて、実習指導者（作業療法士）の下、２週間の見学及び業務補助を行いながら、作業療法士が実際に臨床場面でどのように対象者と関わっているかを体験し、可能な限り補助的な活動に参加させてもらう。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">作業療法士の実務経験を有する担当者と、実習施設の作業療法士（指導者）がそれぞれの実務経験を活かし、学生が実務面での知識・技能・態度の習得につながるよう、個々の特性に応じた指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">1，通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの役割、目的、対象患者、制度を理解することができる。
2，見学・観察から作業療法士がどのように関わっているかを知る。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">・職業人としての常識的な態度、マナーは身についていたか。
・責任のある行動はできていたか。
・自己管理はできていたか。
・意欲的に取り組む姿勢は見られたか・・・
など、実習終了後、各実習先のスーパーバイザーより評価を受ける。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">スーパーバイザーからの評価を受け、その評価を基に各自、今後の自己課題について担任と面談を行う。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり

実習オリエンテーション終了後、各自実習の準備を行う。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習先により異なる	各自異なる実習先にて９０時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	5	開講時期	後期	形態	実習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	225	対象年次	3
科目名	作業療法実習Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	3年担任		
使用教材	1，実習要綱 2，実習施設により異なるため、各自で適宜準備する。							
科目概要	実際の臨床現場にて下記事項について学ぶ。 1 リハビリテーションの本質と役割を理解する。 2 社会の現代的課題に対するリハビリテーション活動が実践できる。 3 専門的知識及び技術に基づいて総合的に対象者を援助する能力・姿勢・態度を養う。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を有する担当者と、実習施設の作業療法士（指導者）がそれぞれの実務経験を活かし、学生が実務面での知識・技能・態度の習得につながるよう、個々の特性に応じた指導を行う。							
到達目標	1 対象者の生命と人権を尊重する。 2 自立支援の観点で援助する。 3 対象者との信頼関係を築く。 4 作業療法技術を学ぶ。 5 福祉・医療施設の運営のあり方を理解する。 6 常に自己研鑽し研究する態度を身に付ける。							
評価方法基準	下記事項について、A大変良い、B良い、C普通、D不十分の評価をつける。 1 挨拶　2 社会人としての自覚及び行動　3 実践から学ばせていただく態度 4 守秘義務　5 積極的な学習態度　6 提出期限の遵守							
成績評価のフィードバック	実習施設における指導者から、適宜指導する。							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習先により異なる	各自異なる実習先にて225時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>9</td><td>開講時期</td><td>前期</td><td>形態</td><td colspan="2">実習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>405</td><td>対象年次</td><td>4</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">臨床実習Ⅰ
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">小林雅津良</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">１・２・３・４年次に配布した教材すべて</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">実際の臨床現場にて下記事項について学ぶ。
１リハビリテーションの本質と役割を理解する。
２社会の現代的課題に対するリハビリテーション活動が実践できる。
３専門的知識及び技術に基づいて総合的に対象者を援助する能力・姿勢・態度を養う。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">作業療法士の実務経験を有する担当者と、実習施設の作業療法士（指導者）がそれぞれの実務経験を活かし、学生が実務面での知識・技能・態度の習得につながるよう、個々の特性に応じた指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">１対象者の生命と人権を尊重する。
２自立支援の観点で援助する。
３対象者との信頼関係を築く。
４作業療法技術を学ぶ。
５医療施設の運営のあり方を理解する。
６常に自己研鑽し研究する態度を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">下記事項について、総合的に判断し「優・良・可・不可」の判定を受ける。
１専門職としての適性及び、ふさわしい態度
２作業療法の進め方（①作業療法を施行するための情報収集・検査・測定、②作業療法の治療計画の立案、③作業療法の実施）</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">実習施設における指導者から、適宜指導する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり
実習指導者とのコミュニケーションを密にとり、指示を仰ぐ。必要な知識は学習し患者対応までに準備・理解すること。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床実習	各自異なる実習先にて405時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>9</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">実習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>405</td><td>対象年次</td><td>4</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">臨床実習Ⅱ
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">小林雅津良</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">１・２・３・４年次に配布した教材すべて</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">実際の臨床現場にて下記事項について学ぶ。
１リハビリテーションの本質と役割を理解する。
２社会の現代的課題に対するリハビリテーション活動が実践できる。
３専門的知識及び技術に基づいて総合的に対象者を援助する能力・姿勢・態度を養う。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">作業療法士の実務経験を有する担当者と、実習施設の作業療法士（指導者）がそれぞれの実務経験を活かし、学生が実務面での知識・技能・態度の習得につながるよう、個々の特性に応じた指導を行う。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">１対象者の生命と人権を尊重する。
２自立支援の観点で援助する。
３対象者との信頼関係を築く。
４作業療法技術を学ぶ。
５医療施設の運営のあり方を理解する。
６常に自己研鑽し研究する態度を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">下記事項について、総合的に判断し「優・良・可・不可」の判定を受ける。
１専門職としての適性及び、ふさわしい態度
２作業療法の進め方（①作業療法を施行するための情報収集・検査・測定、②作業療法の治療計画の立案、③作業療法の実施）</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">実習施設における指導者から、適宜指導する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり
実習指導者とのコミュニケーションを密にとり、指示を仰ぐ。必要な知識は学習し患者対応までに準備・理解すること。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床実習	各自異なる実習先にて405時間の実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<table>
<tr><td>履修区分</td><td>必修</td><td>単位数</td><td>1</td><td>開講時期</td><td>後期</td><td>形態</td><td colspan="2">講義・演習</td></tr>
<tr><td>開講学科</td><td colspan="4">作業療法学科</td><td>配当時間</td><td>45</td><td>対象年次</td><td>3</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">臨床実習前評価
☑　実務経験のある教員による授業</td><td>担当者</td><td colspan="3">作業療法学科教員
（オムニバス）</td></tr>
<tr><td>使用教材</td><td colspan="8">1，実習要綱
2，履修分野により異なるため、各自で適宜準備する。</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="8">実際の臨床現場にて対応できるように下記事項について学ぶ。
１リハビリテーションの本質と役割。
２社会の現代的課題に対するリハビリテーション活動の実際。
３専門的知識及び技術に基づいて総合的に対象者を援助する能力・姿勢・態度を養う。</td></tr>
<tr><td>実務経験と授業科目の関連</td><td colspan="8">作業療法士の実務経験に基づき、学生の事前準備を実務技能及び知識に発展させられるように援助する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="8">社会人としての接遇が実践できる。
リスク管理でき、安全にも配慮できる。
安全・正確に検査できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法基準</td><td colspan="8">実技試験を実施する。</td></tr>
<tr><td>成績評価のフィードバック</td><td colspan="8">実技試験にて合否を決める。改善点は口頭・書面にて指摘して再試験を実施する。</td></tr>
<tr><td>事前準備留意点等</td><td colspan="8">☐　なし
☑　あり
１・２・３年次の授業科目の再学習。実技の継続的学習。</td></tr>
</table>

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実技練習	20時間	
2	ビジネスマナー	10時間	
3	実技試験	15時間	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	45	対象年次	4
科目名	臨床実習後評価 ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	作業療法学科教員		
使用教材	症例報告書（レジュメ）							
科目概要	学生が臨床実習で行って来た内容を発表し、その内容（症例）について協議・討論する事で、作業療法の知識や技術の向上を図る。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験に基づき、学生の気づき等を実務技能及び知識に発展させられるように援助する。							
到達目標	臨床での一連の流れを習得する。 臨床のための知識・技術の向上。							
評価方法基準	レジュメと発表の内容							
成績評価のフィードバック								
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり １・２・３年次の授業科目の再学習							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	セミナー	レジュメ発表（４５時間）	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	講義・演習	
開講学科	作業療法学科				配当時間	60	対象年次	3
科目名	作業療法研究Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	小林　雅津良 林　幸彦		
使用教材	教科書・プリント（適宜配布）							
科目概要	本授業は、作業療法士国家試験の合格を目指し、重要ポイントを効率的に学ぶことを目的とする。試験範囲を系統的に整理し、解剖学、生理学、運動学、疾患別リハビリテーションなどの基礎・応用知識を講義と演習を通じて習得する。過去問分析や模擬試験を活用し、実践的な解答力を養成する。また、最新の試験傾向をふまえた対策を行い、理解の定着と得点力向上を図る。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、国家試験に必要な知識を、課題に沿って学習する。 学習内容を発表して、討議する。							
到達目標	①期日までに課題提出できる。 ②主体的学習ができる。 ③模擬試験を通して自己理解（実力・不得意分野）できる。 ④国家試験合格水準まで学力をあげる。							
評価方法基準	1　講義への出席 2　発表内容 3　課題の提出 4　実技演習の実施 5　進級判定試験60点以上。（再試験合格可）							
成績評価のフィードバック	①課題演習・発表方法について適宜指導する。 ②課題遂行・出欠席について適宜指導する。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり 課題学習・資料作成が必要になるため、計画的学習と教員とコミュニケーションを密にして進めていく必要がある。積極的に質問・相談すること。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コースオリエンテーション	学習方法・課題説明・成績評価について	
2	コースオリエンテーション	作業療法士国家試験概要	
3	演習用発表資料作成	割り当てられた国家試験問題の発表資料作成	
4	演習用発表資料作成	割り当てられた国家試験問題の発表資料作成	
5	演習用発表資料作成	割り当てられた国家試験問題の発表資料作成	
6	演習用発表資料作成	割り当てられた国家試験問題の発表資料作成	
7	演習課題発表	演習課題発表	
8	演習課題発表	演習課題発表	
9	演習課題発表	演習課題発表	
10	演習課題発表	演習課題発表	
11	演習課題発表	演習課題発表	
12	実技演習	演習課題発表について討議	
13	実技演習	演習課題発表について討議	
14	実技演習	演習課題発表について討議	
15	実技演習	演習課題発表について討議	

回	単元	内容	備考
16	実技演習	演習課題発表について討議	
17	国家試験対策	英語表記について	
18	国家試験対策	英語表記について	
19	国家試験対策	英語表記について	
20	国家試験対策	症候群・徴候	
21	国家試験対策	症候群・徴候	
22	国家試験対策	症候群・徴候	
23	国家試験対策	症候群・徴候	
24	国家試験対策	症候群・徴候	
25	国家試験対策	症候群・徴候	
26	国家試験対策	症候群・徴候	
27	国家試験対策	症候群・徴候	
28	国家試験対策	症候群・徴候	
29	国家試験対策	症候群・徴候	
30	期末試験	期末試験	

履修区分	必修	単位数	20	開講時期	後期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	300	対象年次	4
科目名	作業療法研究Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	作業療法学科教員 オムニバス		
使用教材	クエスチョンバンク共通問題・専門問題他							
科目概要	各担当による講義やグループ学習、課題の提供など、受験者の合格率100％を到達目標として実施していく。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、国家試験対策授業を実施する。							
到達目標	国家試験合格							
評価方法基準	過去問題、業者模試等総合して評価する							
成績評価のフィードバック	適宜、フィードバックする							
事前準備留意点等	☑　なし ☐　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖学	中枢神経	
2	解剖学	末梢神経	
3	解剖学	内臓諸器官	
4	解剖学	内臓諸器官	
5	解剖学	内臓諸器官	
6	生理学	代謝	
7	生理学	呼吸	
8	整理学	循環	
9	生理学	排泄	
10	生理学	内分泌	
11	神経内科学	脳血管障害	
12	神経内科学	変性疾患	
13	神経内科学	自己免疫疾患	
14	神経内科学	筋疾患	
15	神経内科学	神経疾患総論	

回	単元	内容	備考
16	内科学	呼吸器疾患	
17	内科学	循環器疾患	
18	内科学	消化器疾患	
19	内科学	代謝・内分泌疾患	
20	内科学	その他の疾患	
21	整形外科学	骨折・脱臼	
22	整形外科学	末梢神経障害	
23	整形外科学	脊髄損傷	
24	整形外科学	変性性関節疾患	
25	整形外科学	小児整形外科疾患	
26	病理学	血液	
27	病理学	免疫	
28	病理学	免疫	
29	病理学	腫瘍	
30	病理学	病理	

回	単元	内容	備考
31	身障分野	評価法（ROM）	
32	身障分野	評価法（ROM）	
33	身障分野	評価法（MMT）	
34	身障分野	評価法（MMT）	
35	身障分野	感覚検査	
36	身障分野	ブルンストローム法	
37	身障分野	腫瘍性病変	
38	身障分野	外傷性脳損傷	
39	身障分野	脳出血	
40	身障分野	脳卒中急性期	
41	身障分野	脳卒中回復期	
42	身障分野	脳卒中片麻痺	
43	身障分野	パーキンソン病	
44	身障分野	脊髄小脳変性症	
45	身障分野	筋萎縮側索硬化症	

回	単元	内容	備考
46	身障分野	多発性硬化症	
47	身障分野	インジストロフィー症	
48	身障分野	ギランバレー症候群	
49	身障分野	呼吸器疾患	
50	身障分野	糖尿病・心疾患	
51	身障分野	悪性腫瘍、緩和ケア、その他	
52	身障分野	運動療法	
53	身障分野	関節リウマチ	
54	身障分野	熱傷	
55	身障分野	末梢神経損傷	
56	運動学	顔面・体幹	
57	運動学	上肢・下肢	
58	運動学	バイオメカニクス・姿勢	
59	運動学	歩行・椅子からの立ち上がり	
60	運動学	筋の収縮様式・運動学習	

回	単元	内容	備考
61	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
62	精神・高次脳分野	脳・神経の病態生理	
63	精神・高次脳分野	認知症	
64	精神・高次脳分野	認知症	
65	精神・高次脳分野	防衛機制	
66	精神・高次脳分野	障害受容	
67	精神・高次脳分野	転移	
68	精神・高次脳分野	記憶	
69	精神・高次脳分野	発達心理	
70	精神・高次脳分野	心理テスト	
71	精神・高次脳分野	心理療法	
72	精神・高次脳分野	統合失調症（障害特性と作業適用）	
73	精神・高次脳分野	統合失調症（急性期）	
74	精神・高次脳分野	統合失調症（回復期）	
75	精神・高次脳分野	統合失調症（抗精神病薬）	

回	単元	内容	備考
76	精神・高次脳分野	気分障害（うつ状態）	
77	精神・高次脳分野	気分障害（双極性障害）	
78	精神・高次脳分野	神経症性、身体表現性障害	
79	精神・高次脳分野	パーソナリティ障害	
80	精神・高次脳分野	摂食障害	
81	精神・高次脳分野	アルコール関連障害	
82	精神・高次脳分野	薬物依存、中毒による障害	
83	精神・高次脳分野	薬物療法	
84	精神・高次脳分野	小児期の精神医学	
85	精神・高次脳分野	てんかん	
86	精神・高次脳分野	行動症候群	
87	精神・高次脳分野	児童期、青年期の精神障害	
88	精神・高次脳分野	多動性障害	
89	精神・高次脳分野	不登校児、引きこもり、その他	
90	精神・高次脳分野	その他の精神疾患	

回	単元	内容	備考
91	精神・高次脳分野	器質的精神障害	
92	精神・高次脳分野	生理的老化	
93	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
94	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
95	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
96	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
97	精神・高次脳分野	高次脳機能障害	
98	精神・高次脳分野	法規（PT・OT法）	
99	精神・高次脳分野	精神保健および精神障害者の福祉に関する法律	
100	精神・高次脳分野	医療観察法	
101	精神・高次脳分野	精神科デイケア	
102	精神・高次脳分野	精神保健一般	
103	精神・高次脳分野	障害者総合支援法	
104	精神・高次脳分野	地域生活移行支援	
105	精神・高次脳分野	就労支援	

回	単元	内容	備考
106	精神・高次脳分野	医療記録・症例研究	
107	精神・高次脳分野	感染対策・リスクマネージメント	
108	精神・高次脳分野	倫理	
109	精神・高次脳分野	面接技術	
110	精神・高次脳分野	介護保険法	
111	発達分野・身障分野	小児の疾患	
112	発達分野・身障分野	小児の運動発達	
113	発達分野・身障分野	手根管症候群	
114	発達分野・身障分野	筋、腱損傷	
115	発達分野・身障分野	骨粗鬆症、骨折	
116	発達分野・身障分野	側弯症、脊椎疾患	
117	発達分野・身障分野	複合性局所疼痛症候群	
118	発達分野・身障分野	治療	
119	発達分野・身障分野	評価法総論	
120	発達分野・身障分野	評価法総論	

回	単元	内容	備考
121	発達分野・身障分野	正常発達	
122	発達分野・身障分野	反射	
123	発達分野・身障分野	脳性麻痺	
124	発達分野・身障分野	発達検査	
125	発達分野・身障分野	知的障害	
126	ADL・地域	摂食・嚥下機能	
127	ADL・地域	摂食・嚥下機能	
128	ADL・地域	摂食・嚥下機能	
129	ADL・地域	自助具	
130	ADL・地域	自助具	
131	ADL・地域	自助具	
132	ADL・地域	住環境整備	
133	ADL・地域	住環境整備	
134	ADL・地域	住環境整備	
135	ADL・地域	車椅子	

回	単元	内容	備考
136	ADL・地域	車椅子	
137	ADL・地域	車椅子	
138	ADL・地域	褥瘡予防、ポジショニング	
139	ADL・地域	褥瘡予防、ポジショニング	
140	ADL・地域	褥瘡予防、ポジショニング	
141	義肢装具	上肢装具の適用	
142	義肢装具	上肢装具の適用	
143	義肢装具	上肢装具の製作	
144	義肢装具	上肢装具の製作	
145	義肢装具	切断	
146	義肢装具	切断	
147	義肢装具	義手の名称	
148	義肢装具	義手のチェックアウト	
149	義肢装具	筋電義手	
150	義肢装具	座位保持装置、歩行補助具	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	1
科目名	総合学習Ⅰ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人 袴田　亮一		
使用教材	教員作成のプリント・資料							
科目概要	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な専門職としてのリハビリテーションの在り方を学ぶ。また、他学年とのグループワークを通じて、チーム医療の考え方を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な説明力や企画・準備の能力、グループでの活動のあり方の知識が得られるよう解説する。							
到達目標	1, 作業療法士の役割を理解する。 2, 作業療法士に必要な知識を理解する。 3, チーム医療であることを理解する。 4, 他学年と交流を持つことによって、協調性を身に付ける。 5, 柔軟な発想を身に付ける。							
評価方法基準	・レポート課題の提出。 ・グループワークの内容を評価する。 ・授業出席数を満たす。							
成績評価のフィードバック	・レポートやグループ発表について、その都度フィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総合学習Ⅰについて	オリエンテーション	
2	グループワーク①	ワールドカフェ①	
3	グループワーク①	ワールドカフェ②	
4	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
5	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
6	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
7	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
8	グループワーク③	筋肉カード作成	
9	グループワーク③	筋肉カルタ大会	
10	グループワーク④	自助具作製	
11	グループワーク④	自助具作製	
12	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
13	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
14	グループワーク⑥	福祉機器展　見学	
15	グループワーク⑥	福祉機器展　発表	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	2
科目名	総合学習Ⅱ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人 袴田　亮一		
使用教材	教員作成のプリント・資料							
科目概要	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な専門職としてのリハビリテーションの在り方を学ぶ。また、他学年とのグループワークを通じて、チーム医療の考え方を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な説明力や企画・準備の能力、グループでの活動のあり方の知識が得られるよう解説する。							
到達目標	1, 作業療法士の役割を理解する。 2, 作業療法士に必要な知識を理解する。 3, チーム医療であることを理解する。 4, 他学年と交流を持つことによって、協調性を身に付ける。 5, 柔軟な発想を身に付ける。							
評価方法基準	・レポート課題の提出。 ・グループワークの内容を評価する。 ・授業出席数を満たす。							
成績評価のフィードバック	・レポートやグループ発表について、その都度フィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総合学習Ⅰについて	オリエンテーション	
2	グループワーク①	ワールドカフェ①	
3	グループワーク①	ワールドカフェ②	
4	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
5	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
6	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
7	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
8	グループワーク③	筋肉カード作成	
9	グループワーク③	筋肉カルタ大会	
10	グループワーク④	自助具作製	
11	グループワーク④	自助具作製	
12	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
13	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
14	グループワーク⑥	福祉機器展　見学	
15	グループワーク⑥	福祉機器展　発表	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
開講学科	作業療法学科				配当時間	30	対象年次	3
科目名	総合学習Ⅲ ☑　実務経験のある教員による授業				担当者	池田　直人 袴田　亮一		
使用教材	教員作成のプリント・資料							
科目概要	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な専門職としてのリハビリテーションの在り方を学ぶ。また、他学年とのグループワークを通じて、チーム医療の考え方を学ぶ。							
実務経験と授業科目の関連	作業療法士の実務経験を活かし、作業療法士に必要な説明力や企画・準備の能力、グループでの活動のあり方の知識が得られるよう解説する。							
到達目標	1, 作業療法士の役割を理解する。 2, 作業療法士に必要な知識を理解する。 3, チーム医療であることを理解する。 4, 他学年と交流を持つことによって、協調性を身に付ける。 5, 柔軟な発想を身に付ける。							
評価方法基準	・レポート課題の提出。 ・グループワークの内容を評価する。 ・授業出席数を満たす。							
成績評価のフィードバック	・レポートやグループ発表について、その都度フィードバックを行う。							
事前準備留意点等	☐　なし ☑　あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	総合学習Ⅰについて	オリエンテーション	
2	グループワーク①	ワールドカフェ①	
3	グループワーク①	ワールドカフェ②	
4	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
5	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーションを企画する	
6	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
7	グループワーク②	高齢者のためのレクリエーション：発表	
8	グループワーク③	筋肉カード作成	
9	グループワーク③	筋肉カルタ大会	
10	グループワーク④	自助具作製	
11	グループワーク④	自助具作製	
12	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
13	グループワーク⑤	福祉機器展　見学	
14	グループワーク⑥	福祉機器展　見学	
15	グループワーク⑥	福祉機器展　発表	